

# リアホナ



わたしたちは主をどのように  
礼拝するでしょうか、  
4, 10, 16 ページ

名もない少年、えり抜きの聖見者、  
20 ページ

教会で居場所がないと  
感じていますか、28 ページ

守りとなる福音の7つの原則、  
34 ページ



ジョセフ・F・スミスは1901年から1918年まで教会の大管長を務めた。80歳で亡くなったが、この写真はその1年前に撮影されたものである。彼の父親であるハイラム・スミスは、ジョセフ・スミスとともに1844年に殉教した。ジョセフ・F・スミスは1866年、27歳のときにプリガム・ヤング大管長によって使徒に聖任され、4人の大管長の顧問として仕えた。中央幹部として52年間奉仕し、彼の多くの教えが『福音の教義』(Gospel Doctrine)という書籍として出版された。また、彼は現在教義と聖約第138章に記されている啓示を受けた。



メッセージ

- 4 大管長会メッセージ——  
クリスマスにキリストを求める  
ディーター・F・ウークトドルフ管長
- 7 家庭訪問メッセージ——  
進んで互いの重荷を負う

特集

- 10 いと高きところでは、  
神に栄光があるように  
ロナルド・A・ラズバンド長老  
このクリスマスの時季に、あなたは  
どのようにしてキリストの証人となる  
ことを選びますか。
- 16 キリストの降誕にまつわる  
14の出来事  
ジェシカ・グリフィス  
救い主の降誕にまつわる出来事を  
聖文の中から探してみましょう。
- 20 ジョセフ・スミス——  
弱さを強くされる  
マーカス・B・ナッシュ長老  
預言者ジョセフに起こったと同じよ  
うに、わたしたちが自分の弱さを認  
めて主に頼るときに、奇跡は起こり  
ます。
- 28 もっと上手にできる、  
パート2——イエス・キリストの  
教会に居場所を見つける  
ベッツィー・バンデンバーグ  
居場所がないと感じることがありま  
すか。解決方法を紹介します。

- 34 イエス・キリストの福音——  
避け所となり守りとなる  
ジェトウリオ・ウォルター・ジャガー・  
エ・シルバ  
教義と聖約から——人生において  
守りの祝福を受けるための7つの方法

シリーズ

- 8 救い主の方法で教える——  
家族の話し合いを改善する  
タグ・ハート
- 40 末日聖徒の声
- 44 信仰の肖像——  
ジョセフィン・スキーラー
- 80 また会う日まで——  
キリストの大義を雄々しく果たす  
ジョセフ・スミス大管長



表紙  
Nativity, by Bruce Hixson Smith



48

46 モンゴルズ・ゴット・タレント!

ポー・ニエン (フェリーペ) チョウ, ペトラ・チョウ, オドゲレル・オチリヤブ  
ヤングアダルトの聖歌隊が、歌を通じて国を魅了し——福音を分かち合ったのです。

48 救い主への贈り物

チェルスタン・ピクストン  
自分自身について考えるのをやめ、わたしの兄弟姉妹たちについて考える必要がありました。

50 再び信仰を見いだす

デビッド・ディクソン  
テ・オラノアは、証が弱くなっていったときでさえ、以前の心地よい経験を思い出しました。

52 クリスマスキャロルの魔法

歌による思いがけない祝福についての二つの話

54 クリスマスが宣教師となる絶好の  
時季である 8 つの理由

シャーロット・ラーカバル  
宣教師になることがこんなに簡単だなんて、だれが想像できたでしょう。

58 ポスター——主のための部屋

59 教会指導者からの答え——  
クリスマスのほんとうの精神を  
感じるには

トーマス・S・モンソン大管長

60 質疑応答

「大切なことについて祈っていますが、  
答えを受けたかどうか分かりません。  
どうしたら答えを受けたことが分かる  
でしょうか。」

62 わたしたちのスペース



76

64 クリスマスイブのお客様

ホリー・K・ワージントン  
「あーあ。」一年の中でも大好きな夜が台なしになろうとしているとクララは思いました。

66 勇気を出して分かち合う

ポール・B・パイパー長老  
イエス・キリストについて友達が学ぶのを助けてくれませんか。

67 教会歴史の登場人物——  
今日の教会

68 赤いチケット

ダーシー・ジェンセン・モリス  
マテオは、イエスのように良い友達になりたいと思いました。どうすればよいでしょうか。

70 使徒からの答え——  
くい改めによって、どのように幸せ  
になれるか

デール・G・レンランド長老

72 イエスの教え

イエスのいくつかの教えにしたがうことでクリスマスのカウントダウンをする、楽しい方法をしようかします。

74 音楽——イエスさまに心を開いて

ラリー・ヒラーとマイケル・F・ムーディー

75 わたしたちのページ

76 イエスのお話——イエス、  
ベツレヘムにお生まれになる

キム・ウェブ・リード

79 色をぬりましょう

こんげつごう なか かく  
今月号の中に隠れている  
リアホナを捜しましょう。  
ヒント——  
せいれいは、  
あなたが良い友達に  
なるのを、  
どのように  
助けてくださいましょうか。



54

# 世界中の芸術家への招き

「わたしは主のみわざを思い起す。わたしは、いにしえからのあなたのくすしみわざを思いいだす。わたしは、あなたのすべてのみわざを思い、あなたの力あるみわざを深く思う。」(詩篇 77:11-12)



芸術家の皆さんは、ユタ州ソルトレーク・シティ、教会歴史博物館が主催する第11回国際美術コンテストに向けて、新たな作品を創作するよう招かれています。

- テーマ——「信条に思いをはせる」詩篇77:11-12から着想を得たテーマ。あらゆる芸術的な表現手段やスタイル、文化的アプローチを歓迎します。
- 応募期間——2018年2月1日から6月1日
- 年齢——参加対象者は18歳以上
- 賞——審査員によって選ばれた受賞者は、2018年10月に発表されます。厳選された作品は、教会歴史博物館およびインターネット上で展示されます。

ルール、資格要件、オンライン登録に関する詳細については、[lds.org/artcompetition](https://lds.org/artcompetition) にアクセスしてください。

## 今月号に採り上げられているテーマ

数字は記事の最初のページを表します。

イエス・キリスト, 4, 10, 16, 42, 43, 48, 58, 59, 72, 76, 79, 80	結婚, 34	知恵の言葉, 34
折り, 20, 60	謙遜, 20	父なる神, 20, 28, 75
贈り物, 41, 43, 48, 59	子育て, 8	伝道活動, 34, 46, 48, 54, 64, 66
教え, 8	慈愛, 7	報告責任, 63, 68
音楽, 10, 43, 46, 52, 74	従順, 34	奉仕, 7, 10, 41, 42, 43, 52, 54, 75
家族, 10, 52, 54	什分の一, 34	模範, 8, 62
教会への出席, 28	ジョセフ・スミス, 20	モルモン書, 20, 50, 63, 66, 67
教義と聖約, 34	信仰, 4, 20, 28, 44, 50, 80	友情, 62, 68
悔い改め, 28, 68, 70, 71	真実, 44	預言者, 20, 34, 67
クリスマス, 4, 10, 16, 40, 41, 42, 43, 48, 52, 54, 58, 59, 64, 72, 74, 76, 79	神殿, 34, 44, 67, 75	
	聖文研究, 10, 72	
	聖約, 7, 34, 44	
	聖霊, 34, 40, 60, 68	



大管長会第二顧問  
ディーター・F・  
ウークトドルフ管長

## クリスマスに キリストを求める

**末**日聖徒イエス・キリスト教会の会員であるわたしたちを理解したいと望むすべての方々に対し、わたしは次の簡単な定義から始めるようお勧めしたいと思います。「わたしたちはキリストを求める者です。」わたしたちは主について学び、主に従い、主に似た者となることを願い求めます。

一年を通じて、日ごとに主を求めますが、愛する救い主の降誕を祝うこの時季には特に、わたしたちの心はいっそう主へと向かいます。

クリスマスを祝う準備の一環として、2千年前に生きた人々がどのように救い主を迎え入れる備えをしたのか、たどってみましょう。

### 羊飼いの

羊飼いのついて分かっているのは、「夜、野宿しながら羊の群れの番をしていた」ということくらいです。<sup>1</sup> 羊飼いたちはごく普通の、生きる糧を得るために日々汗して働く、多くの称賛に値すべき人々になぞらえることができるでしょう。

彼らは、かつて進んでキリストを求めることはなかったものの、天が開かれ、キリストの降誕が告げられたときに改心した人々を代表していると言えます。

彼らこそ、天の御使いたちの声を聞くと直ちに、告げられた出来事を見ようとベツレヘムへ向かった人々です。<sup>2</sup>

### 東方の博士

東方の博士は、神の御子であられるメシヤの降誕について

長年研究していた学者たちです。研究により、彼らは御子の降誕を示すしるしを見いだしていました。そして、そのしるしを目にしたとき、祖国を後にしてエルサレムまで旅をし、「ユダヤ人の王としてお生まれになったかたは、どこにおられますか」と尋ねたのです。<sup>3</sup>

キリストに関する博士たちの知識は学術的なものだけではありませんでした。主の降誕のしるしを目にするや、博士たちは行動を起こしました。キリストを探す旅に出たのです。

東方の博士たちは、研究と学びを通してキリストを求める人々を象徴していると言えます。真理に対する献身によって最終的にキリストのもとへ導かれ、王の王、人類の救い主であられる主を礼拝するようになる人々です。<sup>4</sup>

### シメオンとアンナ

シメオンとアンナは、御霊<sup>みたま</sup>によってキリストを求める人々を象徴しています。彼らは信仰深いすばらしい人々で、断食と祈り、献身と従順に満ちた生活を送りながら、神の御子が来られる日を心待ちにしていました。

忠実に、謙遜に、信仰をもって、救い主の来臨の時を忍耐強く待ったのです。

やがて彼らの忠実さが報われる時が来ました。マリヤとヨセフが、人類の罪を一身に引き受けることになるみどりごを連れてやって来たのです。<sup>5</sup>

### ニーファイ人やレーマン人の信者たち

モルモン書には、救い主の降誕のしるしを目の当たりにした

新世界の信者たちの、感動的な物語が記されています。

キリストを信じる人々があざけられ、迫害されていたことは皆さん御承知のとおりです。当時の知識人は、信者たちが愚かな迷信にしがみついていると非難しました。実際、不信者たちのあざけりの声のあまりの激しさに、国中に「ひどい騒動」が起きたほどでした（3 ネーファイ 1:7）。彼らは救い主がお生まれになると信じた人々をあざ笑いました。

彼らの怒りは激しさを増し、これを最後に救い主を信じる人々を一掃しようまで思い込んでいました。モルモン書にはその劇的な結末が記されています。<sup>6</sup>

当時の信者たちは、人に笑われ、あざけられ、からかわれても、キリストを求める人々を象徴しています。教養に欠ける、単純だ、だまされやすいなどと嘲弄ちやうあうされても、キリストを求める人々です。

しかし、真の信者は、人からの侮辱を受けても、キリストを求めることを決してやめはしません。



### このメッセージから教える

**ウ**ークトルフ管長の勧めに従って、キリストをより良く求めるにはどうしたらよいでしょうか。訪問先の家族に「わたしはどのようにキリストを求めているだろうか」と自問するよう勧めてもよいでしょう。毎日の家族の聖文研究の時間を使い、それぞれがどのようにキリストを求めているか、分かち合いから始めてもらうこともできます。訪問先の家族と一緒に [Mormon.org](http://Mormon.org) のクリスマスビデオを視聴し、キリストの教えに従うことによって主を求めるという、この毎年恒例の機会を生かすように招くのもよいでしょう。



### キリストを求める者

一年を通して、このクリスマスの時季には特に、もう一度、こう自問してみるとよいでしょう。「わたしはどのようにキリストを求めているだろうか。」

偉大な王、ダビデは苦難の時にこう記しています。「神よ、あなたはわたしの神、わたしは切にあなたをたずね求め、わが魂はあなたをかわけ望む。……わが肉体はあなたを慕いこがれる。」<sup>7</sup>

ダビデが神の心になつた人と言わ

れた理由の一つは、その神を求める姿勢にあったのかもしれませんが。<sup>8</sup>

このクリスマスの時季、また一年を通じて、わたしたちが心と思いを尽くし、愛する救い主、平和の君、イスラエルの聖者を求めることができますように。そのように主を求める姿勢こそ、末日聖徒イエス・キリスト教会の会員として、またキリストの弟子として歩むわたした

ちの、真の姿を特徴づけるものなのです。■

#### 注

1. ルカ 2:8
2. ルカ 2:15 参照
3. マタイ 2:1-2 参照
4. マタイ 2:11 参照
5. ルカ 2:22-38 参照
6. 3 ニーファイ 1 章参照
7. 詩篇 63:1
8. 使徒 13:22 参照

## 子供

### イエスを求める

たくさんの人々が、イエスの誕生を求め、待っていました。今わたしたちは、イエスがもう一度来られるのを求め、待ちます。イエスについて学び、イエスにしたがうことによって、じゅんびすることができます。あなたはどのようにしてイエスにしたがいますか。星の中に、あなたの考えを書いてください。





## 進んで互いの重荷を負う

よく祈りながらこの資料を学び、何を伝えるべきか分かるよう靈感を求めてください。扶助協会の目的を理解することで、神の娘たちはどのように永遠の命の祝福へと備えられるでしょうか。

「わたしたちの周りには、……わたしたちの注目、励まし、支え、慰め、親切を必要としている人が大勢います」とトーマス・S・モンソン大管長は述べています。「わたしたちは地上で主の御手に使われる器であり、わたしたちには御父の子供たちに仕え、彼らを高める責務があります。主はわたしたち一人一人を頼りにしておられるのです。」<sup>1</sup>

大管長会第一顧問のヘンリー・B・アイリング管長は次のように言っています。「主の教会に加わったとき、皆さんの心の中に大きな変化が生じ始めました。皆さんは聖約を交わし、一つの約束を受けました。その約束が皆さんの本質を変え始めたのです。……」

皆さんは、主が〔人々〕の重荷を軽くし、慰められるのを助けると約束しました。聖霊の賜物を受けたとき、そのような重荷を軽くするのを助ける力が与えられました。」<sup>2</sup>

「福音の光にかざして、救い主が御覧になるように、思いやりと希望と慈愛をもってほかの人を見られるようになりたいも



信仰  
家族  
扶助

のです」と中央扶助協会会長のジーン・B・ビンガム姉妹は語っています。「ほかの人の心が完全に理解できるようになり、自分に注がれた慈愛に感謝する日がやって来ます。それは、わたしたちが、……ほかの人に慈愛の心で愛に満ちた言葉をかけるのと同じです。……」

わたしたちの義務であり特権は、救い主……のようになる努力をしながら、すべての人の成長を受け入れることです。」<sup>3</sup>

互いの重荷を負い、聖約を守るとき、わたしたちは、イエス・キリストによって人々がもっと癒されるようにすることができます。十二使徒定員会のジェフリー・R・ホランド長老は次のように教えています。「十字架での苦しみと贖罪の計り知れない犠牲を思うと、主がわたしたちに背を向けて助けてくださらないはずはないと皆さんに約束できます。心の貧しい人々に

向けて言われた『わたしのもとにきなさい』という主の御言葉は、苦しみから人を救い、さらに成長させる方法を主は御存じだということを意味しています。主が救いへの道を御存じなのは、主御自身がそこを歩まれたからであり、主が道そのものであられるからです。」<sup>4</sup>

### その他の聖句

マタイ 25 : 40 ; ガラテヤ 6 : 2 ;  
モーサヤ 2 : 17 ; 18 : 8 - 9  
[www.lds.org/callings/relief-society?lang=jpn](http://www.lds.org/callings/relief-society?lang=jpn)

### 注

1. トーマス・S・モンソン「愛を込めて主に仕える」『リアホナ』2014年2月号、4
2. ヘンリー・B・アイリング「慰め主」『リアホナ』2015年5月号、18参照
3. ジーン・B・ビンガム「わたしは福音の光を家庭にもたらします」『リアホナ』2016年11月号、6、8参照
4. ジェフリー・R・ホランド「壊れたものを元どおりに」『リアホナ』2006年5月号、71参照



考えてみましょう

人の重荷を負って助け、  
聖約を

守ることで、

イエス・キリストが

苦しむ人々を

癒される道が

開かれるのは

なぜでしょうか。

子供たちがより積極的に福音を学べるように助けるには、どうしたらよいでしょうか

ダグ・ハート

**何**年前、妻とわたしは、10代の子供たちが家族の聖文研究や家庭の夕べ、そして1対1で福音について交わす何気ない会話のときに見せる行動パターンを心配するようになりました。物理的に参加する、時折目を合わせる、質問に一言<sup>ひとこと</sup>で答えるなど、最低限の学習基準を満たしてはいたものの、積極的に学習に携わってはいなかったからです。

子供たちが堅固な証<sup>あかし</sup>を得、聖霊の力によって個人的な深い改心を経験するためには、さらなる行動を起こす必要があることは分かっていました。救い主は、弟子たちが単に主の言葉を聞くのではなく、信仰をもって御自分の教えを実践するように望んでおられ

## 家族の

ます（『救い主の方法で教える』30参照）。

ある夜のこと、わたしたち夫婦の思いを子供たちに話しました。わたしたちの目的は、御霊<sup>みたま</sup>に導かれた評議の場を持つことだったのですが、話し合いはすぐに一方的な説教になってしまいました。わたしたちの言葉は、彼らの耳には届いたものの、その心と思いには届かなかったのです。

妻とわたしは、そのような経験に心を痛めました。そこで、子供たちがより能動的に福音を学べるように助け、わたしたちに言われ、作用されたからではなく、自ら行動を起こすよう励ますにはどうすればよいのかを深く考え始めたのです。そのような問いかけから、わたしたちは聖文や末日の預言者の言葉、またそのほかの教会のリソースを調べ、教えることと学習することについて学ぶようになりました。

## 話し合いを

そして、それに基づいてこのような原則を打ち立てたのです。

家族の話し合いにおいて、子供たちが聖霊を求めると導く

**愛と尊敬を培う**——愛は心を和らげます。愛を示すことは、子供たちが聖霊の影響を受けられるように備えるうえで助けとなるものです。また、霊的な学習に積極的に取り組みたいという望みと意欲を養うことにもなります。子供たちの考えや思いに耳を傾け、確かめ、それを尊重するときに、子供たちはいっそう安心し、進んで自分の気持ちを伝えるようになります。

**御霊によって教える**——子供たちを注意深く観察し、耳を傾けましょう。そうすることで御霊によって備えられ、次に語るべきこと、尋ねるべき質問、勧めるべき事柄を判断できるようになり、子供たちが学ぶ際に聖霊の導きを求めることにつながります。

# 改善する

すべての話し合いにおいて神の言葉を用いる——福音に関するわたしたちの考えや意見を伝えることは助けとなりますが、往々にして聖文や末日の預言者の言葉の方が、より深く、より力強く御霊を招いてくれます（教義と聖約 84：45 参照）。

福音に関する話し合いの中心を救い主に据える——話し合っている事柄が救い主とその贖い、すなわち「キリスト教の教義の根本」にどのように関連しているかを子供たちが理解するとき、その話し合いに実体と力が伴います（ボイド・K・パッカー「仲保者」『聖徒の道』1977年10月号、488参照）。

靈感を招く質問をする——効果的な質問をすると、子供たちは御霊の助けによって、聖文や預言者の言葉から直接真理を導き出し、理解できるようになります。そのような方

法で学ぶことは、わたしたちが同じ資料を使ってどれほど明解に説明するよりも、子供たちにとって意味あることなのです。

話すように家族を励ます——子供たちが目にしているもの、考えていること、または感じていることを自分の言葉で表現しようとするとき、聖霊を招くことになります。何を、どのように話せばよいかを理解できるよう、聖霊が助けてくださるのです。このプロセスは、主が子供たちに何を学び、感じてほしいと望んでおられるかを、子供たち自身がよりはっきりと理解する助けとなります。

忍耐強くある！——子供たちが真理を知り、理解しようと思いつくとき、聖霊が彼らに働きかけてくださいます。わたしたちは個人的な意見や解決策を手に、不用意に立ち入って、子供たちの探究を遮ろうとする誘惑

に打ち勝つ必要があります。

模範によって導く——子供たちに求めているのと同じ方法でわたしたち自身が福音を学び、それに従って生きようと努めることで、家族の話し合いにおいて御霊の導きと支えを受けるうえでのふさわしさが得られます。

計画を実行に移そうする中で、家族の話し合いに聖霊の影響力を招くには、訓練と時間が必要であることを学びました。しかし、わたしたちは落胆したり、諦めたりしないようにしました。少し前のある夜、家族で読んでいたモルモン書の一節から促しを受けた10歳の娘が、真剣にこう尋ねたのです。「どうしたら聖霊によって学べるの。」わたしはほほえみました。効果が出始めていることが分かったからです。■

著者は現在、ブラジル・クリティバ伝道部の伝道部会長として奉仕しています。

教えるための新しいガイドブック『救い主の方法で教える』には、青少年や若い子供たちを教えるための提案が載っています。teaching.lds.orgを参照してください。





十二使徒定員会  
ロナルド・A・  
ラズバンド長老

# いと高きところでは、 神に栄光があるように

主とともに働くとき—つまり、主から命じられたことを行い、  
周りの人を元気づけるとき—  
わたしたちは主が生きていて  
わたしたちを愛しておられることを証しているのです。

**ユ**ダヤのベツレヘムでイエス・キリストがお生まれになる700年前に、預言者イザヤは宣言しました。「見よ、おとめがみごもって男の子を産む。その名はインマヌエルとなえられる。」(イザヤ7:14)

救い主の降誕の125年前に、ベニヤミン王はこう預言しています。「この御方は、イエス・キリスト、神の御子、天地の父、時の初めからの万物の創造主と呼ばれ、母はマリヤと呼ばれる。」(モーサヤ3:8)

イエスがみどりごととしてお生まれになる前日に、ニーファイの息子ニーファイは、「明日、わたしは世に来る」と言われる声を聞きました(3ニーファイ1:13)。

翌日、海を越えたはるかかなたの地で、キリストがみどりごととしてお生まれになりました。母親のマリヤが、生まれたばかりのわが子、肉における御父の独り子をまじまじと見詰めたことは間違いありません。

ルカが述べているように、ベツレヘム周辺のユダヤの丘で、羊飼いが野宿していました(ルカ2:8参照)。この羊飼いたちは、みどりごのキリストについて証を述べることになる「正しい聖なる人々」でした(アルマ13:26参照)。

「すると主の御使が現れ、主の栄光が彼らをめぐり照したので、彼らは非常に恐れた。御使は言った、『恐れるな。見よ、すべての民に与えられる大きな喜びを、あなたがたに伝える。』」

きょうダビデの町に、あなたがたのために救主がお生まれになった。このかたこそ主なるキリストである。……

するとたちまち、おびたしい天の軍勢が現れ、御使と一緒に神をさんびして言った、



『いと高きところでは、神に栄光があるように、地の上では、み心にかなう人々に平和があるように。』(ルカ 2:9-11, 13-14)

ユダヤの地のその情景を思い浮かべてください。空には星が一つ燦然と輝き、天からコーラスが響き渡るのですから、これが特異な出来事であることは明らかです。羊飼いたちは「急いで」行って(ルカ 2:16)、飼い葉おけに寝かされたみどりごにまみえました。その後、彼らは見聞きしたことを「人々に伝えた」のです(ルカ 2:17)。

毎年クリスマスになると、わたしたちは、この羊飼いの証に自分の証を加えます。イエス・キリストは文字どおり生ける神の御子であられ、わたしたちが「聖地」と呼ぶ、地の片隅に降誕されたという証です。

羊飼いたちは敬虔な思いで家畜小屋に行くと、王の王を拝しました。わたしたちはこの季節に、イエスをどのようにして礼拝するのでしょうか。果てしなく買い物をするによってでしょうか。家を飾りたて、贈り物を包むことによってでしょうか。それが救い主への感謝のしるしになりますか。それとも、悩める心に平安を与え、より高い目標を思い描けない人を鼓舞し、主の命令に進んで従うことによって神に栄光があるようにするのでしょうか。

イエスは簡潔にこう言っておられます。「わたしに従ってきなさい。」(ルカ 18:22)

預言者ジョセフ・スミスによって回復されたイエス・キリストの福音に、世界中の信者が共鳴しています。海の島々に住む人々から広大なロシアに住む人々まで、救い主の聖なる言葉を受け入れた人たちの熱意を、わたしは見てきました。

## クリスマスのメッセージ

ハンナ・ラスト・コーナビーは、シオンに集合した初期の聖徒の一人で、アメリカ合衆国ユタ州スパニッシュフォークに居を定めました。回復された教会初期の困難な時期、クリスマスといえば高価なオレンジや木彫りのおもちゃ、縫いぐるみ人形が付き物でしたが、このような物がいつも手に入るわけではありませんでした。ハンナは、1856年12月25日のことをこう書いています。

「クリスマスイブが来た。子供たちは、子供特有の信仰をもって靴下をつるし、何か〔プレゼントを〕入れてもらえるかと思っている。心が痛んだが、それを悟られないようにしながら、あなたたちは忘れられていないのよと子供たちに言い聞かせた。すると、子供たちは翌日の朝を楽しみにして眠りに就いた。

甘味料ががかけられないのだから、どうしてよいか分らなかった。しかし、子供たちをがっかりさせるわけにはいか

ない。そのとき、家にカボチャが何個かあることを思い出した。蒸して汁を絞り、2、3時間煮込むと、甘いシロップができた。これと少々スパイスで、ジンジャーブレッドの生地を作った。それをありとあらゆる形に切って、フライパンで焼き(窯はなかった)、子供たちの靴下に詰めた。それを見た子供たちの喜びよといったら、とてつもなく豪華なお菓子を見たときの喜びに引けを取らないほどだった。」<sup>1</sup>

この話が伝えるのは、夜通し取り組んだ母親の姿です。作業を楽にしてくれる窯すらなかったにもかかわらず、子供たちを喜ばせ、彼らの信仰を奮い立たせて「すべては善し」と家庭で言えるように、最大限の努力を払ったのです。<sup>2</sup>これこそが、クリスマスのメッセージではないでしょうか。

トーマス・S・モンソン大管長はこう教えています。「自らをささげる機会には確かに無限にありますが、すぐに失われてしまうものでもあります。わたしたちには、喜ばせるべき心、伝えるべき思いやりの言葉、与えるべき贈り物……が〔あります。〕<sup>3</sup>

主とともに働くとき——つまり、主から命じられたことを行い、周りの人を元気づけるとき——わたしたちは、この世でどんな試練に遭おうとも、主が生きておられることと、主がわたしたちを愛しておられることを証しているのです。

スコットランド人の改宗者、ジョン・メンジーズ・マクファーレンは、夫に先立たれた母と弟とともに教会に入り、1852年に3人でユタ州ソルトレーク・シティーまで旅をしました。当時18歳でした。何年もかけて、測量技師になり、建築業者になり、地方裁判所の判事にまでなりましたが、特に際立っていたのは音楽の才能でした。

まずユタ州シーダー・シティーで聖歌隊を組織し、アンサンブルを率いてユタ州南部を回りました。セントジョージでの公演後に、使徒であり入植地の指導者であったエラスタス・スノー長老(1818-1888年)から、家族を連れ、その音楽の才能をもってセントジョージに引っ越して来るように言われました。

1869年は困難な時でしたから、スノー長老は、人々の霊が高揚するクリスマスプログラムを開催するようマクファーレン兄弟に頼んだのです。マクファーレン兄弟は、そのイベントのために人の心を引き付ける新曲が欲しいと思いました。ところが、どうあがいても作れません。靈感を求めて何度も祈りました。

そしてある晩、彼は妻を起こして叫んだのです。「歌詞が浮かんだ。メロディーもだ!」急いで、居間にある小さなオルガンの鍵盤に向かうと、メロディーを弾いては書き取りました。その間、妻は、油の入った容器に浸したフランネルの布に火をつけ、その瞬く光を夫の前にかざしていました。言葉



とメロディーがよどみなく湧いてきました。

昔、ユダヤの野辺に  
歌聞けり 羊飼ひ  
神にはみ栄え<sup>さか</sup>  
高き神、栄えあれ<sup>は</sup>  
地には平和を  
人に親しみ<sup>あ</sup>

マクファーレン兄弟はユダヤに行ってその野辺を見たことこそなかったものの、この歌の靈感されたメッセージは、救い主がベツレヘムでお生まれになり、世界が永遠の変化を遂げ始めるという証として、彼の魂からあふれ出たものでした。<sup>5</sup>

ジョン・メンジーズ・マクファーレンは音楽によって、そしてハンナ・ラスト・コーナビーは子供たちに尽くすことによって、それぞれイエス・キリストについて証したのです。同じよ

うにわたしたちも、簡単な無私の行いによって主に仕え、主について証することができます。家庭やワード、職場、そのほか責任のある分野で良い影響を及ぼすことができるのです。

### 良い影響を及ぼす

良い影響を及ぼせる一つの簡単な方法は、毎年恒例の、ソーシャルメディアを使った教会のクリスマスキャンペーンに参加することです。このキャンペーンは、聖徒たちと全世界の神の子供たちが救い主に心を向けられるようにすることを目的としています。今年のクリスマスに、教会ではもう一つ別の全世界的取り組みを行って、キリストの降誕を祝うと同時に、クリスマスの季節に人に奉仕することによってキリストに倣うよう人々に勧めます。

教会は、昨年成功した「Light the World——光となりましょう」というテーマを再度掲げています（Mormon.org 参照）。このテ



姉は見事なキルトを作り、それを「すべての名に勝る名」と呼びました。このキルトには、イエス・キリストの26の名が縫い込まれています。



マは、「イエスは、また人々に語ってこう言われた、『わたしは世の光である。わたしに従って来る者は、やみのうちを歩くことがなく、命の光をもつであらう』』というヨハネ第8章12節の言葉から取っています。

このキャンペーンでは、アドベントカレンダー〔訳注——クリスマスまでの日数を数えるためのカレンダー〕とそれに関連する聖句が用いられており、人々が奉仕してキリストの光を輝かすためのアイデアを、そこから学べるようにしています。

モンソン大管長はこう言っています。「わたしたち一人一人は、キリストの光を授かって地上に来ます。救い主の模範に倣い、主が生きられたように生き、主が教えられたように生きるとき、その光はわたしたちの内側で燃え、人々のために道を照らします。」<sup>6</sup>

わたしたちは、救い主がなされたことを行うことによって救い主を知ります。人に奉仕するとき、自分も、奉仕を受ける人も、主に近づきます。

### 「すべての名に勝る名」

クリスマスの時季になると、わたしは幼い孫のパクストンを思い出します。めったにない先天的な疾患を持って生まれたパクストンは、数え切れないほど健康上の問題で苦しみました。パクストンがわたしたちの生活に祝福をもたらしてくれたわずか3年間に、天の御父はわたしたち家族に特別に愛のこもった教訓を与えてくださいました。

わたしの姉のナンシー・シンドラーは、パクストンのために見事なキルトを作りました。姉はそれを「すべての名に勝る名」と呼びました。キルトには、Aで始まるものからZで始まるものまで、イエス・キリストの26の名が縫い込まれています。そのキルトは、救い主の苦しみと犠牲と復活のおかげで、将来パクストンと家族が輝かしい再会を果たすことができるということを思い起こさせてくれます。

このキルトに触発されて、わたしは聖文に出てくるイエス・キリストの名を研究するようになりました。キリストの名を調べることが、わたしの個人の聖文研究に組み込まれたのです。これまでに、救い主の名を何百も見つけました。

十二使徒定員会の一員としてのわたしの責任の一つは、教義と聖約で言っているように、イエス・キリストの証を述べることです。教義と聖約にはこう書かれています。「十二人の巡回評議員は召されて、十二使徒、すなわち全世界におけるキリストの名の特別な証人となる。」(教義と聖約107:23;強調付加)

先日わたしは、ソルトレーク・シティーにある初等協会小児病院の聖餐会で話すよう依頼されました。そのときに、イ

エス・キリストとその希望に満ちた名について話すようにという促しを感じました。救い主が「輝く明けの明星」であり(黙示22:16)、「すでに現れた祝福の大祭司」(ヘブル9:11)、「御自分の翼にある癒しによって」よみがえられた「奇跡の神」(2ニーファイ25:13;27:23)、「平和の君」(イザヤ9:6;2ニーファイ19:6)、「よみがえりであり、命」(ヨハネ11:25)であられることを、わたしは証しました。

クリスマスの時季に、救い主の様々な名を言いながら、自分のオフィスに通じるテンプルスクウェアのクリスマスライトの中を行き来するのが、わたしの楽しみになっています。救い主の名は、Aの「アルパであり、オメガ(Alpha and Omega)」(黙示1:8)から始めて、Bのベツレヘムの「幼な子(the babe)」(ルカ2:12,16)、Cの「議士(Counsellor)」(イザヤ9:6。2ニーファイ19:6〔助言者〕参照)、Dの「救う者(Deliverer)」(ローマ11:26)、Eの「高くあげられた者(exalted one)」(詩篇89:19)、Fの「平和の創始者(founder of peace)」(モーサヤ15:18)などと続きます。

このクリスマスの時季を通じて、わたしは救い主の名をもっとたくさん覚えて、御名をたたえる機会があることを楽しみにしています。このクリスマスの時季に良い影響を及ぼそうと努めるのであれば、救い主を中心に置いて努力し、主の御名によって人に奉仕して救い主に栄光を帰するようにしてください。

わたしは証します。永遠の御父は生きておられます。御父の幸福の計画は、あらゆる世代の御父の子供一人一人の生活に大いなる祝福をもたらします。御父の愛子イエス・キリスト、ベツレヘムでお生まれになったみどりごが、世の救い主であり、贖い主であられることを、わたしは知っています。

次の賛美の言葉は、わたしの耳に真理を語りかけています。「神にはみ栄え 高き神、栄えあれ 地には平和を人に親しみ」<sup>7</sup>

BYU 経営学会ソルトレーク支部を対象にして、2016年12月13日、アメリカ合衆国ユタ州ソルトレーク・シティーにおいて行われた講話より

### 注

1. Hannah Cornaby, *Autobiography and Poems* (1881), 45 - 46
2. 「恐れず来たれ、聖徒」『賛美歌』17番
3. トーマス・S・モンソン「わたしたちも、そう生きられますように」『リアホナ』2008年8月号、5
4. 「昔、ユダヤの野辺に」『賛美歌』126番
5. Karen Lynn Davidson, *Our Latter-day Hymns: The Stories and the Messages* (1988), 223 - 224 参照
6. トーマス・S・モンソン「模範となり、光となる」『リアホナ』2015年11月号、86
7. 『賛美歌』126番

# キリストの降誕

にまつわる

## 14の出来事

ジェシカ・グリフィス

**わ** たしたちはイエス・キリストの降誕を毎年祝います。賛美歌を歌い、家族の伝統を楽しみます。そして、主の降誕をたたえることによって、主を思い起こすのです。でも、イエスの降誕の詳細は、聖文にどう書かれているのでしょうか。

### 場所

### 出来事

キリストの降誕が預言される

創世 49 : 10 ;  
イザヤ 7 : 14 ;  
9 : 1 - 7 ;  
ミカ 5 : 2 ;  
モーサヤ 3 : 8 ;  
アルマ 7 : 10 ;  
ヒラマン 14 : 2 - 5



天使ガブリエル、バプテスマのヨハネの親を訪れる

マタイ 17 : 12 - 13 ;  
ルカ 1 : 5 - 25  
(特に 17 節) ;  
教義と聖約 27 : 7 ;  
『聖句ガイド』  
「エライアス」の項



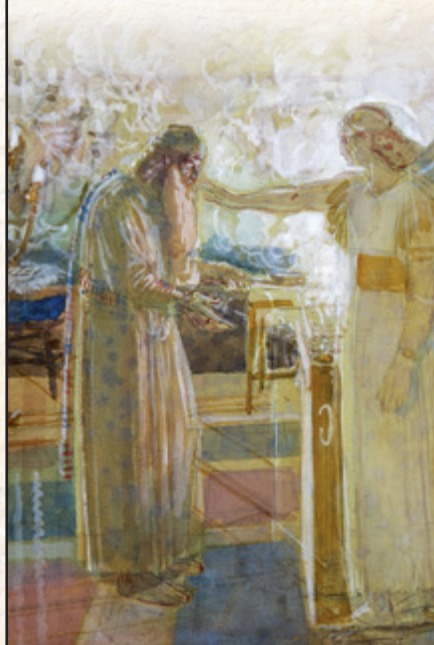
古代エルサレムと古代アメリカ

ユダヤ

救い主がお生まれになるはるか以前に、預言者たちは、イエス・キリストについて啓示を受けていました。旧約聖書の預言者たちは、ダビデ王の子孫である王、つまりメシヤがベツレヘムにお生まれになると言っていたのです。ユダヤ人の解釈によると、このメシヤは、御自分の民であるユダヤ人を政治的な抑圧から解放する王となり、公正に地を治めるとされていました。

一方で、古代のユダヤ人は、民を霊的な抑圧から解放する王を望んではいませんでした。イエス・キリストは、一時的な救いと地上の王国ではなく、永遠の救いと御父の王国をもたらそうとしておられたのです。

バプテスマのヨハネは、エライアス、つまりキリストに先駆ける者でした。天使ガブリエルは、ヨハネの父となるザカリヤに、妻エリサベツに子が生まれることを告げ、その子をヨハネと名付けなければならないと言いました。ザカリヤはこれを信じなかったため、耳が聞こえず、口もきけなくなりました。



### クリスマスの真髄

「この御方が世に来てくださったので、このクリスマスの時季にわたしたちの喜びがあります。この御方から来る平安、わたしたち一人一人が感じるこの御方の無限の愛、この御方が大きな代価を払ってわたしたちに無料で与えてくださったものに対する圧倒されるばかりの感謝の念、これらがクリスマスの真髄なのです。」

ゴードン・B・ヒンクレイ大管長 (1910 - 2008 年) 「クリスマス  
のすばらしい、ほんとうの話」 『リアホナ』 2000 年 12 月号, 6 参照

天使ガブリエル、  
マリヤに現れる

マタイ 1: 18;  
ルカ 1: 26 - 38



ナザレとガリラヤ

マリヤ、  
エリサベツを  
訪ねる

ルカ 1: 39 - 56



ユダヤ

バプテスマの  
ヨハネ  
生まれる

ルカ 1: 57 - 80



ユダヤ

天使ガブリエル、  
ヨセフに現れる

マタイ 1: 18 - 23



ナザレ



ガブリエルは6か月後に、今度はエリサベツの親族であるマリヤのもとを訪れました。そして、マリヤはおとめではあるけれども、聖霊の力によって身ごもり、その子はイエス・キリストになると告げたのです。マリヤは、神の御子の母となる召しをへりくだって受け入れます。この天使は、親族のエリサベツが身ごもっていることも告げました。



マリヤは天使の訪れを受けた後、ナザレをたつて、ユダヤにいる親族エリサベツのもとを訪れ、そこに3か月間滞在しました。マリヤの滞在中、エリサベツは、マリヤの宿している子が神の御子であるという証を、聖霊によって得ます。マリヤも神について自分の証を述べました。



バプテスマのヨハネが生まれたとき、人々は彼を、父親の名にちなんでザカリヤと名付けようとした。しかし、エリサベツはそれに納得せず、友人や隣人に、その名はヨハネだと言います。友人や隣人がこれについてザカリヤに問うと、ザカリヤはエリサベツと同じことを言いました。ザカリヤは、ガブリエルに言われた通りの名を息子に付けたところ、舌が緩み、聴覚も戻ってしゃべれるようになり、神をほめたたえました。



マリヤと婚約していたヨセフは、ナザレに帰ったマリヤが身重であることを知ると、「ひそかに離縁」、つまり人知れず婚約を解消しようと思いました。ところが、そうする前に天使ガブリエルが夢に現れて、マリヤのおなかの子は聖霊によって宿っているのであり、民を罪から救う者になると証したのです。そこでヨセフは、マリヤと別れることなく、結婚することにしました。

「ルカ福音書」の挿絵「バプテスマのヨハネの誕生」(ルカ福音書第1章第57-80節)の挿絵。この挿絵は、1669年、デトロイト美術館蔵の「バプテスマのヨハネの誕生」(ルカ福音書第1章第57-80節)の挿絵。この挿絵は、1669年、デトロイト美術館蔵の「バプテスマのヨハネの誕生」(ルカ福音書第1章第57-80節)の挿絵。

すべての  
人が  
課税される

ルカ 2:1-4;  
ジェームズ・E・  
タルメージ  
『キリスト・イエス』  
100-101



ローマ帝国

イエス・  
キリストが  
お生まれになる

ルカ 2:6-7



ナザレとベツレヘム,  
ユダヤ

預言されていた  
しるしが  
アメリカ大陸に現れる

ヒラマン 14:1-5,  
3 ニーファイ 1:  
15-21



アメリカ大陸

羊飼いに  
キリストの降誕が  
知らされる

ルカ 2:8-17



ベツレヘム付近

ローマ帝国が実施した課税制度には、税を課すことと、人口調査のために登録することの二つの役割がありました。通常ローマ人は居住地で登録しましたが、ユダヤ人は、慣習に基づいて先祖の地で登録することにしていました。そのために、ヨセフの先祖の地であるベツレヘムには大勢の人が集まり、宿に空きがありませんでした。



ベツレヘムには「パンの家」という意味があり、そこはメシヤがお生まれになると預言されていた地である。

ヨセフとマリヤは登録手続きのためにベツレヘムに行きました。イエスがお生まれになると、マリヤはイエスを飼い葉おけに寝かせました。飼い葉おけとは家畜のえさを入れる容器で、マリヤはこれのみどりごのベッドにしたのです。そこに動物がいたという記述はありません。

キリストがお生まれになった日、アメリカ大陸では、預言されていたように一昼夜にわたって真昼の明るさが続き、空に一つの新しい星が現れました。



この季節、羊飼いは戸外で昼夜羊の群れの番をしていました。天使が現れて救い主の降誕を告げたのも、まさに彼らが羊の群れの番をしていたときのことです。天使がこれを告げると、おびたしい数の天使が現れて神を賛美しました。羊飼いたちはこれを聞くと、イエスにお会いするために急いでベツレヘムに行きました。彼らはイエスにまみえると、ヨセフとマリヤのもとを去り、目にしたことを人々に伝えました。









七十人  
マークス・B・  
ナッシュ長老

# ジョセフ・スミス

## 弱さを 強くされる

**数** 千年前に、古代のヨセフは次のように預言しました。「主はわたしにこう言われた。『わたしはあなたの腰から出た者の中から、一人のえり抜きの聖見者を立てよう。……わたしの言葉を……伝える力を彼に授けよう。……その聖見者は弱さを強くされる』……。」(2 ニーファイ 3:7, 11, 13)

わたしは、「弱さを強くされる」というこの預言に心をひかれ、霊を鼓舞されました。力ある業をなすことを主が弱い者に求められるのは、理にかなわないと思われるかもしれませんが。しかし、自分の弱さを認める人々は、実にその弱さのゆえに、主の力を求めずにはいられなくなることがあります。このように信仰をもって自らへりくだる人々は、天においても地においても一切の権威を持っておられる主によって強くされるでしょう(マタイ 28:18; モーサヤ 4:9 参照)。<sup>1</sup>

ジョセフ・スミスは、若いころからこの方法で主に近づきました。ジョセフは14歳のときに、罪の赦しを強く願ひ、またどの教会が正しいのかを知りたいと切望しました。ジョセフはこう記録しています。「わたしの気持ちに深く、またしばしば痛烈に感じるものがあった……。……わたしのように若く、世間のことを知らない者にとって、だれが正しく、だれが間違っているか、確かな結論を出すことは不可能であった。」(ジョセフ・スミス—歴史 1:8 参照)

この弱さを十分に認識していたジョセフは、神の教会をどこで見いだすことができるか知るために聖なる森へ入って行きました。何を行えばその教会に加わることができるか尋ねたのです(ジョセフ・スミス歴史—1:18 参照)。その謙虚な心からの祈りへの答えとして、父なる神とその御子イエス・キリストがジョセフに御姿を現されました。それによって、御二方は、悪魔の力からジョセフを救い出し、回復のための道を備えられたのです(ジョセフ・スミス—歴史 1:14-19 参照)。

ジョセフ・スミスは、自分が「世の弱い者たち」の一人であるということに異議を唱えませんでした(教義と聖約 1:19; 35:13)。後年、主はジョセフ・スミスにこう述べておられま

わたしたちもジョセフ・スミスのように、自分の弱さを認め、信仰をもって主に頼るならば、強くされます。

「聖書」の「聖書」の「聖書」

obliged to labour hard

す。「わたしがあなたを立てたのは、この目的のためである。すなわち、地の弱い者たちによってわたしの知恵を示すためである。」(教義と聖約 124:1)

### 名もない少年

ジョセフは自分自身のことを、「名もない少年、それも日々の労働によってわずかな生活費を得なければならない定めに置かれた少年」と言っています(ジョセフ・スミス—歴史 1:23)。ジョセフは、低い社会階層の生まれで、正式な教育を受ける機会に限られていました。彼は自分の歴史を書くに当たって、まずその弱い立場を強調しようとしました。



その状態から<sup>みわざ</sup>御業に召されたからです。

「わたしは、1805年12月23日に北アメリカのバーモント州シャロンの町で、善い両親から生まれました。両親は労を惜まずわたしにキリスト教について教えてくれました。わたしがおよそ10歳の年に、父ジョセフ・スミス・シニアは、ニューヨーク州オンタリオ郡バルマイラに引っ越し、困窮した状況の中で、9人の子供がいる大家族を養うために懸命に働かざるを得ませんでした。家族を養うのに助けとなるあらゆる努力を払うことが必要とされ、そのため、わたしたちは教育の恩恵を得られませんでした。読み書きと算数の基本だけを教わったと言えればそれで十分でしょう。」<sup>2</sup>

ジョセフは自分の教育不足を痛感し、「言うなれば真っ暗な小さな狭い監獄、紙とペンとインクの監獄、少しおかしく、たどたどしく、散漫で、不完全な言葉の監獄」の中に閉じ込められていることを嘆いたことがあります。<sup>3</sup> それにもかかわらず、主は、モルモン書を翻訳するために彼を召されました。初版の総ページ数は588ページで、ジョセフはそれを90日足らずで翻訳したのです。

冷静に考える人は、ほとんど教育を受けていないジョセフが独りでそのようなことを成し遂げられるはずはないと思うかもしれません。また、工夫を凝らした説明をされても、真実の説明以上のことはとても信じがたいものです。彼は預言者であって、神の賜物<sup>たまもの</sup>によって翻訳した、というのがその真実の説明です。

### エマの証<sup>あかし</sup>

後年、エマ・スミスは、夫が金版を翻訳した当時のことをこう回想しています。彼は「筋の通った、名文句で飾った手紙を書くことも、口述することもできませんでした。モルモン書のような書物を口述することなど論外でした。わたしは数々の出来事の場面に積極的にかかわってきましたが、ほかの人と同様、わたしにとってもそれは驚嘆すべきこと、『驚きであり不思議』です。」<sup>4</sup>

このような背景を念頭に置いて、1832年11月27日付け

左: ジョセフ・スミス自筆の歴史の一部  
次ページ: ジョセフ・スミスの日記のページ  
線を引いて消された言葉に注目してください。

New York and being in indig  
obliged to labour hard for the  
family having nine child  
and the exertions of all that  
any assistance for the supp  
therefore we were deprived of



for the support of a lar...

のジョセフの最初の日記の第1ページを見ると興味深いものがあります(右の画像を参照)。ジョセフは、モルモン書の翻訳を終えてからおよそ3年半後にこれを書きました。彼が次の言葉を書いた後に線を引いて消していることに注目してください。

「ジョセフ・スミス・ジュニア——記録帳、目に入るすべての詳細な状況を書き留めるために購入。」

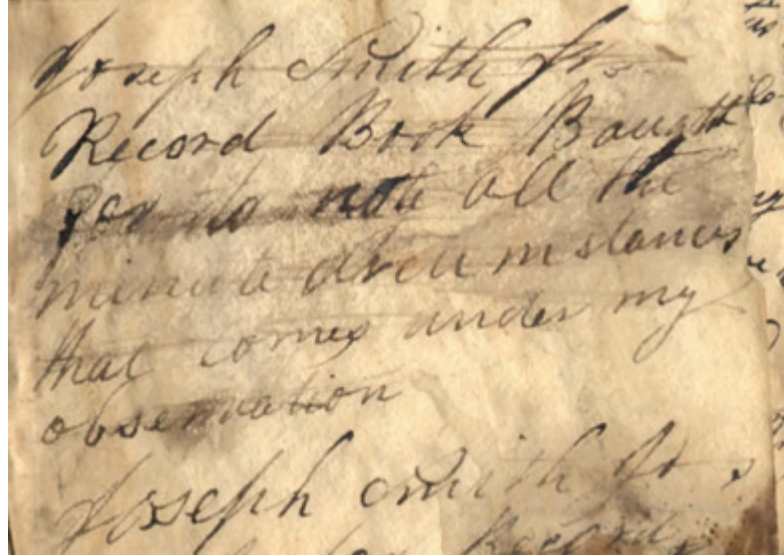
わたしはこの日記を手にして、線で消されたこの言葉を読んだとき、開拓時代のアメリカの田舎にいるジョセフを想像しました。ジョセフは座って冒頭の文を書き、それから「いや、これはあまりよくない。書き直そう」と考えます。そして、その文章を線で消して、こう書きます。「ジョセフ・スミスの記録帳、目に入るすべての事柄について詳細に記録する目的をもって1832年11月27日に購入……」

結局、書いたばかりの堅苦しく、たどたどしい言葉に満足しなかったようで、こう書いています。「おお、神よ、わたしの思いのすべてについて導きをお与えください。おお、あなたの僕を祝福してください、アーメン。」<sup>5</sup> ジョセフが自分の力不足と弱さを感じて、自分の行うすべてのことに導きを与えてくださるよう信仰をもって神に求めていることが、この言葉から分かります。

さて、その日記の記載と1829年4月から6月の間のいつかに書かれたモルモン書の元原稿のページ(次ページ参照)を比べてみてください。

原稿に注目してください。句読点はなく、文字の取り消し也没有。これは作文ではありませんでした。ジョセフはそれを一語ずつ口述したのです。彼は、ウリムとトンミムや、時には聖見者の石など、主が備えてくださった道具の中をのぞき込んで口述しました。その際、言葉が現れるときにそれがはっきりと見えるよう、外部の光を遮断するために帽子を使いました(2ニーファイ27:6, 19-22; モーサヤ28:13参照)。見てのとおり、モルモン書の翻訳と日記の記載の間には大きな違いがあります。前者は預言者、聖見者、啓示者としてジョセフ・スミスが口述したものであり、後者は人としてジョセフ・スミスが書いたものです。翻訳のこの元原稿をよく観察すれば、ジョセフにとって励みとなったに違いない言葉を読み取れます。

「そこで、わたしニーファイは父に言った。『わたしは行っ



て、主が命じられたことを行います。主が命じられることには、それを成し遂げられるように主によって道が備えられており、それでなくては、主は何の命令も人の子らに下されないことを承知しているからです。』(1ニーファイ3:7)

この言葉の少し前で、ジョセフは次の言葉を翻訳していました。「しかし見よ、主の深い憐れみは、信仰があるために主から選ばれたすべての者のうえに及び、この人たちを強くして自らを解放する力さえ与えることを、わたしニーファイはあなたがたに示そう。」(1ニーファイ1:20)

そうです。モルモン書のテーマ——ならびに預言者ジョセフの生涯——は、信仰をもってへりくだって主を求める弱い者は主の業の中で強くされる、実に力強くされるというも

Family having mine

のです。小さいと思われることにおいてさえ、このように強くされるのです。

例えば、字を書き間違えることの多かったジョセフが、主要な筆記者オリバー・カウドリの書いた Coriantumr (コリアンタマー) という名のつづり字を訂正しました (ヒラマン 1:15 参照)。最初にジョセフがオリバーにその名を口述したとき、オリバーは、Coriantummer と書いたのです。「mr」で終わる英語の言葉はないので、これは当然のことでした。しかし、ジョセフは——主から与えられたつづり字を受け入れるのに十分な弱さがある人で——翻訳中につづり字を訂正しました。それは英語では特異なつづり字ですが、エジプト語のつづり字としてはまったく申し分なく、古代世界の状況にはよく合っているということを、今のわたしたちは知っています。ジョセフはこれを知らなかったでしょうが、啓示によって知らされたのです。<sup>6</sup>

### わたしたちは強くされる

モルモン書の翻訳の奇跡は、ジョセフが弱さをどれほど強くされたかという一例です。もう一つ、さらに重要な個人に向けた教訓があります。わたしたちもジョセフのように、自分の弱さを認め、主の御心<sup>みこころ</sup>を行うと決意して、信仰をもって心を尽くして主に頼るならば、弱さを強くされるということです。これは必ずしも、弱さが死すべき世でなくなるという意味ではありません。このような人は神によって強くされるということなのです。

ジョセフは謙虚に自分の不完全さを認めました。そして、若いころに「若者としての弱さと人間性の至らなさを示した」と述べています (ジョセフ・スミス—歴史 1:28)。後年、ノーブーで聖徒たちにこう告げています。自分は「ただの人であって、完全であることを期待してはいけない〔。〕……もしわたしの弱さや兄弟たちの弱さを我慢してくれるなら、わたしも同じように彼らの弱さを我慢しよう〔。〕」<sup>7</sup>

ジョセフは決して完全な者あるいは間違いを犯さない者のふりをすることはありませんでしたが、預言者として行動するときに自分を通して神の力が示されることは認めまし

た。「わたしが人として語る時、語るのはジョセフだけです。しかし、主がわたしを通して語られるとき、語るのはもはやジョセフではありません。神なのです。」<sup>8</sup>

そのようにして、ジョセフは弱さを強くされました。「ただイエスは別として」歴史上のいかなる預言者よりも「人々の救いのために多くのことを」行えるように強くされたのです (教義と聖約 135:3)。

同様に、不変の神は、ジョセフが行ったように、わたしたちが十分に固い決意と信仰をもって頼るならば、皆さんやわたしの弱さを強さに変えてくださいます。

### 祈りと謙遜<sup>けんそん</sup>

神の日の栄えの化学によれば、主は、この世においても永遠にわたっても重要である唯一の方法、すなわち主によって



father. I will go and do the  
commandments for I know  
commandments unto  
shall prepare a way for  
Hish the things which

<sup>1</sup> ニーファイ 3:7 に相当するモルモン書の手書き原稿の一部。

children and as it require

わたしたちが強くなれるように、わたしたちに弱さを与えておられます。主は言っておられます。「もし人がわたしのもとに来るならば、わたしは彼らに各々の弱さを示そう。わたしは人を謙遜にするために、人に弱さを与える。わたしの前にへりくだるすべての者に対して、わたしの恵みは十分である。もし彼らがわたしの前にへりくだり、わたしを信じるならば、そのとき、わたしは彼らの弱さを強さに変えよう。」(エテル 12:27)

この聖文によれば、わたしたちは謙遜になれるように弱さを与えられており、自らへりくだり、主を信じる信仰を働かせることを選ぶ人は、強くされるのです。そして、神の前にへりくだることが必須の触媒となって、神の力と権威がわたしたちの生活に現れます。

「自分は賢いと思い、神の勧告に聞き従わない」人がいま

す。そのような人は「自分独りで分かると思って神の勧告を無視するので、彼らの知恵は愚かであって役に立[ちません]。」「(2 ニーファイ 9:28) この高慢の解毒剤は、「神の御前で自分を愚かな者だと思って心底謙遜になる」ことです(2 ニーファイ 9:42)。

ジョセフは、若いときから、謙遜さを養う大きな鍵が、誠実に心から祈って天の御父に求めることであると理解していました。初期の教会員、ダニエル・タイラーは、多くの人が預言者に敵対したカートランドの時代を回顧しています。預言者が主の助けを求めて会衆とともに祈った集会に出席したタイラー兄弟は、その経験を次のような言葉で述べています。

「わたしはこれまで男女を問わず人々が祈りをささげるのを聴いてきました。……しかし、まるで造り主が優しい父親としてその場において、従順な子供の悲しみに耳を傾けてくださっているかのごとく、あのように造り主に語りかけているのを聴いたことは一度もありませんでした。その当時、ジョセフは無学でした。しかし、その祈りは大部分、道を踏み外した……と言ってジョセフを非難する人々のためにささげられました。……その祈りは……天の博学さと天の雄弁さを備えていました。……それはあたかも、もし幕が取り除かれるとしたら、主がわたしの知るかぎり最も謙遜な僕と向き合って立っておられるのが見えるのではないかと思うほどでした。」<sup>9</sup>

### 弱さを強く

ジョセフは、17歳のときにモロナイから告げられたことをこう記録しています。「神がわたしのなすべき業を備えておられること、またわたしの名が良くも悪くもすべての国民、部族、国語の民の中で覚えられること、すなわち、良くも悪くもすべての民の中で語られることを……告げられた。」(ジョセフ・スミス一歴史 1:33)

そのような主張は誇大妄想の証拠だと、当時多くの人が思ったに違いありません。しかし、インターネットのある今日の世界において、その名もない農家の少年の名は世界中に知られており、彼の名は良くも悪くも語られています。

ジョセフとハイラム・スミスがイリノイ州カーセージで亡くなる少し前に、ハイラムは、一緒に監獄の部屋にいたジョセ



the things which the Lord has  
that the Lord giveth in  
the children of men. Save he  
them that they may a com  
be commandeth them on

any assistance

フとほかの人たちに向かって次の言葉を読み、その後でそのページを折りました。

「そしてわたしは、異邦人が慈愛を持てるように、主が彼らに恵みを授けてくださることを主に祈った。

そこで主はわたしに言われた。『たとえ彼らに慈愛がなくても、あなたにとっては問題ではない。あなたは忠実であったので、あなたの衣は清くされるであろう。また、あなたは自分の弱さを認めたので、強くされて、わたしが父の住まいに用意した場所に座せるようになるであろう。』」（エテル 12:36 - 37）

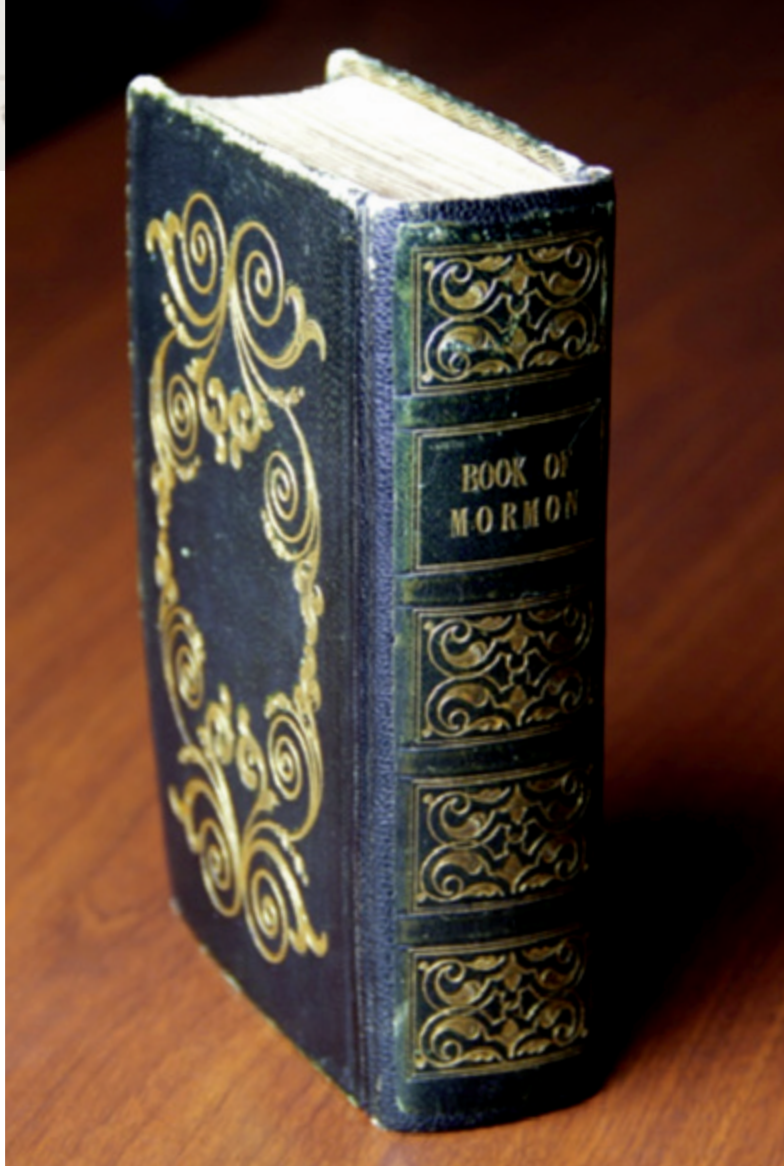
文字どおり、ジョセフは、弱さを強くされたのでした。自分の弱さが一部動機となって、彼は、御心に従って行動することを決意し、信仰をもって神の助けを求めたのでした。ジョセフは生涯、この方法で天の御父に近づきました。結果として、最初の示現を経験し、モルモン書を翻訳し、神権の鍵を受け、回復されたキリストの教会を組織し、世にイエス・キリストの完全な福音をもたらしたのです。預言者ジョセフは強くなりました。しかし、瞬時に強くされたわけではありません。「ここにも少し、そこにも少しと、教えに教え、訓戒に訓戒を与え」られて、そうなったのです（教義と聖約 128:21。イザヤ 28:10; 2 ニューファイ 28:30 も参照）。そして、皆さんもわたしもそうなるでしょう。

ですから、落胆しないでください。強くされるプロセスは、緩やかであり、どんなことがあっても救い主に従い、御心に沿った生活をするという確固たる決意を伴う忍耐が必要です。

## 再び与えられた賜物

16世紀に聖書を英語に翻訳して出版したウィリアム・ティンダルは、聖書を民衆の手に渡すことに反対した学者にこう述べました。「神がわたしを生かしてくださるなら、近い将来、畑を耕す少年の方があなたよりも聖書について多くのことを知るようにさせましょう。」<sup>10</sup>

同様に興味深いことに、300年後、1830年代の著名な巡回説教師ナンシー・トウルが、「モルモン」をじかに見るためにカートランドを訪れました。そして、ジョセフ・スミスやほかの教会指導者たちと話をし、教会を手厳しく批判しました。

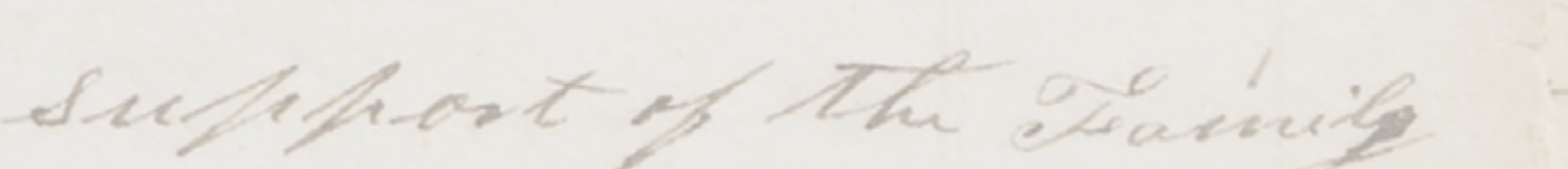


ジョセフとハイラム・スミスがイリノイ州カーセージで亡くなる少し前に、ハイラムは、ジョセフとほかの人たちに向かってこのモルモン書の内容を読みました。

トウルの記録によれば、ジョセフが何も言わないため、彼女はジョセフの方を向いて、天使が金版のある場所を示すと誓って言うように求めました。するとジョセフは快く応じながらも、自分は決して誓わないと言いました。ジョセフをいらだたせることができなかったトウルは、ジョセフに恥をかかせようと思いました。「あなたはこのような疑わしい主張をして恥ずかしいと思わないのですか」と、トウルは言いました。「あなたはこの国のどこにでもいる、ただの無知な農家の少年にすぎないわ。」

ジョセフは静かに答えました。「昔、無学の漁師たちに与えられたように、また再び賜物が与えられたのですよ。」<sup>11</sup>

ティンダルの言葉は将来を予見したものでした。農家の少年が成長して、ただ救い主は別として、この世に生を受けたいかなる人よりも聖文について多くのことを知るように



なったのです。

確かに、イエス・キリストの回復された教会と福音は、アメリカの開拓地の「農家の少年」であるジョセフ・スミスの業ではありません。そうではなく、それは預言者ジョセフ・スミスを通して回復された主イエス・キリストの御業なのです。ジョセフは自分の人生について深く考え、ヤコブの言葉に共感したかもしれません。「主なる神はわたしたちの弱点を示される。それは、このようなことを行う力がわたしたちにあるのは、神の恵みと人の子らに対する神の大いなるへりくだりによるということを、わたしたちに分からせるためである。」(モルモン書ヤコブ4:7)

ジョセフ・スミスが過去も現在も神の預言者であり、弱さを強くされたことを、わたしは知っています。ブリガム・ヤング大管長(1801-1877年)はこう言っています。「わたしは預言者ジョセフ・スミスを長年知っていることを考えると、一日中でもハレルヤと叫びたい気持ちになります。」<sup>12</sup> わたしは現世でその特権にあずかっていませんが、次の歌詞の約束に慰めを得ます。「ジョセフを世はまた知る」という約束です。<sup>13</sup> わたしは、預言者ジョセフ・スミスと、彼を強くくださった神の前での彼の謙遜さに心から感謝しています。わたしも、この歴史に、またわたしたちが主の前に自らへりくだり、御心を行うという確固たる決意をして主を信じる信仰を働かせるならば、主がわたしたち一人一人の弱さを強くくださるといふ教義に勇気づけられます。■

2013年2月10日にアメリカ合衆国ユタ州ローガンで開催された、第70回年次ジョセフ・スミス記念ディボーションで行われた話「弱さを強くされる」から。

注

1. わたしは同僚たち、特に、思慮に富んだ情報を提供してくれた教会歴史部のリチャード・E・ターリー・ジュニアとジェド・ウッドワースに感謝しています。
2. ジョセフ・スミス, *The Joseph Smith Papers, Histories, Volume 1: 1832 - 1844*, ed. Karen Lynn Davidson and others (2012), 11に引用
3. ジョセフ・スミス, "Letter to William W. Phelps, 27 November 1832," 4, josephsmithpapers.org
4. エマ・スミス, "Last Testimony of Sister Emma," *Saints' Herald*, Oct. 1, 1879, 290に引用。ラッセル・M・ネルソン, "A Treasured Testament," *Ensign*, July 1993, 62 - 63も参照
5. ジョセフ・スミス, *The Joseph Smith Papers, Journals, Volume 1: 1832 - 1839*, ed. Dean C. Jessee and others (2008), 9に引用
6. "Coriantumr" と固有名詞のつづり字について、ロイヤル・スカウセンの言葉を参照。*Book of Mormon Authorship Revisited: The Evidence for Ancient Origins*, ed. Noel B. Reynolds (1997), 61 - 93に引用。スカウセンは、元原稿を証拠として、その文章に見られる最初の固有名詞が正しくつづられていることを示している。その後に出てくる名前は正しくつづられていないことがあるが、それはジョセフ・スミスが最初にそれぞれの名前のつづりを言った後、その後は筆者の記憶を信頼したことを示している。
7. 『歴代大管長の教え—ジョセフ・スミス』522
8. エドワード・スティーブンソン, Hyrum L. Andrus, Helen Mae Andrus, comps., *They Knew the Prophet* (1974), 87に引用
9. ダニエル・タイラー, "Recollections of the Prophet Joseph Smith," *Juvenile Instructor*, Feb. 15, 1892, 127. 『歴代大管長の教え—ジョセフ・スミス』127も参照
10. ウィリアム・ティンダル, S・マイケル・ウィルコックス, *Fire in the Bones: William Tyndale — Martyr, Father of the English Bible* (2004), 47に引用
11. *Vicissitudes Illustrated, in the Experience of Nancy Towle, in Europe and America* (1833), 156, 157
12. 『歴代大管長の教え—ブリガム・ヤング』375
13. 「たたえよ、主の召したまいし」『賛美歌』16番



知識の習得と成熟が速かったジョセフ

「預言者ジョセフの務め全体を通じ、特徴的なのは、比較的年が若かったことと、わずかな学校教育しか受けていなかったこと、そして知識の習得と成熟が信じられないほど速く達成されたことです。14歳で最初の示現を受け、天使モロナイが初めて訪れたのは17歳のときでした。21歳で金版を授かり、わずか23歳のときにモルモン書の翻訳を(通算して60日足らずで)

終えています。教義と聖約の啓示の大半は、預言者が25歳以下のときに受けたものです。大管長会が組織されたのが26歳のときで、カートランド神殿が奉献されたときは30歳でした。」

十二使徒定員会

ダリン・H・オークス長老  
「ジョセフ——人として預言者として」  
『聖徒の道』1996年7月号, 81



もっと上手にできる, パート2 —

# イエス・キリストの教会に 居場所を見つける

キリストの教会の会員としての祝福を享受するのをだれにも邪魔させてはいけません。



## ベッツィー・バンデンバーク

編集者注—— イエス・キリストの福音を信じる信仰がどれほど強くても、居場所がないと感じていると、忠実であり続けることは容易ではないでしょう。教会の指導者は最近、『多様性における一致』(Unity in Diversity) というタイトルのビデオシリーズの中で、この問題について話しました。2017年9月号の記事「もっと上手にできる——人々を群れに歓迎する」では、人を歓迎するわたしたちの責任について検討しました。パート2となるこの記事では、居場所があると感じているかどうかにかかわらず、自分の信仰に対してどのように責任を引き受けられるかに焦点を当てます。

8年間教会から足が遠のいていたパウロ(呼称はすべて仮名です)はブラジルのビショップから電話を受け、最近の様子を尋ねられました。パウロは教会に戻りたいと切に願っていましたが、多くの不安が活発に集う妨げとなっていました。どうすれば、まだ独身の自分と、結

婚して子供もいる人たちとを比較せずにいられるだろうか。長い間教会に来ていなかったのに友人が見つかるだろうか。見つかったとして、自分のことをどう思うだろうか。改宗した当時や伝道中のときのように、まだ御霊を感じる事ができるだろうか。召しを引き受けるだけの信仰があるだろうか。

その電話の1か月後、パウロは大管長会第二顧問のデーター・F・ワークトドルフ管長が総大会で「ともに集いましょう」という説教をするのを見ました。<sup>1</sup>「衝撃を受けました」とパウロは振り返ります。数週後、教会の駐車場に車を止めて、震えながら心の中で祈りをささげました。車から出て教会堂に入るための強さを求めて祈ったのです。

「すべてがうまくいったわけではありませんでした。」パウロは教会に戻ってからの1年間を振り返ってこう述べています。なかなかなじむことができませんでした。それでも、救い主とつながっているという感覚と、神殿推薦状を強く望む気持ちのおかげで、不安を乗り越えることができました。パウロは再び聖典を読み、祈り始めました。「諦めなければ、力を得て主の祝福を感じるができます」と、受け入れられているとあまり感じられない人たちに助言します。「この教会はキリストの教会だという証<sup>あかし</sup>はありますが、真<sup>しん</sup>の居場所を見いだす先は、主御自身です。」

パウロの物語は、教会指導者たちがビデオシリーズ『多様性における一致』の中で説明している幾つかの要点を表しています。指導者たちのメッセージは、居場所がないと感じる人々に、希望と助言を与えてくれます。教会にいても孤独を感じるがありますが、ビデオの中の指導者や会員が指摘しているように、疎外感やほかの会員から受けた不当な扱いにかかわる問題を克服する助けとなることを行うことができます。他人と比較するのを避け、不安を抱えつつ前進し、いつでも教会に戻れることを理解し、何より、救い主を信頼することができるのです。

## 比較を避ける——最終的にはだれもが祝福を受ける

「自分を人と比較始めると、落胆か高慢のどちらかに至ります。……祝福には短期的なものと長期的なものがあります。また、幕を通った後まで取っておかれる祝福も時折あります。……最終的には、永遠の命の約束は、すべての人のためのものだということを確信することができるのです。」

——十二使徒定員会、ゲアリー・E・スティーブンソン長老

ローチェルはホームレスの施設で過ごした後、アメリカ合

衆国西部の裕福な地域にある質素なアパートに引っ越ししました。離婚し、何人かの子供を育てていたローチェルは、食費と住居費を賄えるよう、仕事を二つ、時には三つ、掛け持ちし、改宗以来、定期的には教会に集っていませんでした。ローチェルはこう説明します。「新しいワードのだけれもがわたしよりも裕福に見えましたが、彼らはわたしと変わろうとしてくれましたし、わたしの身なりも受け入れてくれました。みんな親切でした。」相当な経済的な重荷を負っていたにもかかわらず、ローチェルは自分よりも余裕のある人たちに腹を立てたりはしませんでした。

「確かに、もっと経済的に安定したいですが、隣人の家を見て、神に忘れられたと思ったことはありません」とローチェルは言います。「わたしが誤った選択をしていたときさえ、主が隣を歩いてくださっているのを感じることができました。」

ローチェルは仕事のスケジュールに時折苦しみました。ワードの指導者や友人は、最終的に神殿に参入したいという彼女の強い願いを実現できるよう助けてくれました。「定期的に神殿に参入することにより、わたしがどれほど成長を遂げたかに感謝することができました」とローチェルは言います。「ほかの人が自分の先を行っているように見えても気にしません。」

ローチェルは、自分と娘たちは苦勞しており、「完璧な末日聖徒の家族ではない」と言います。それでもローチェルは、「だれにでも問題はあり、ほんとうに完全な家族などない」



という考え方のおかげで、神との関係に焦点を当てずに人をうらやんだりすることなく済んでいることを認めています。「娘たちは、福音のおかげでわたしの生活が変わったことに気づいています」とローチェルは言います。「わたしもそれを感じています。仕事と家族と教会のことで忙しいので、人と比較をしているひまはありません。正しい道にいることがうれしくてたまらないんです。」

### 強くなる —— キリストはあなたを変える力をお持ちである

「隣に座っていた人が自分を無視したり、場所を移動したいと思ったりしていたとしても、……わたしに対するキリストの思いや、キリストがわたしに与えてくださった可能性を変えることはありません。一人一人が、神の王国とキリストのからだの中に居場所を得ようと決意する必要があります。思慮に欠ける人や不注意な人、あるいはそれよりも悪い人であっても、それを禁じることはできません。」

—— 十二使徒定員会、D・トッド・クリストファーソン長老

マシューは、教会の小さな支部で育ちました。マシューと彼の妻はウクライナ出身の改宗者で、複数の召しをこなし、様々な国籍の末日聖徒たちと親しく交わることに慣れていましたが、その後アメリカに移り住みました。規模が大きく、文化的な理解も異なるワードに集い、「必要とされず、取り残されている」ように感じたと話します。「なじみませんでした。日曜日に高められる経験や会員との結びつきがなく、無視されているように感じました。」

別の町に引っ越したときに、不満が頂点に達しました。地元の神権指導者が自宅を訪れるというので楽しみにしていたのですが、その訪問の目的は、彼らの活発な幼い子供を聖餐会中に静かにさせてほしいと頼むことだったのです。深く傷ついたマシューは、地域の集会所に二度と行かないでおこうかと考えました。マシューはこう言います。「それをとどめたのは、証でした。この教会は主の教会であり、救い主はこの教会に集うようわたしに望んでおられるという証でした。福音に活発であることは、この世でわたしが経験するであろう心の傷や人間関係のもつれよりもはるかに重要な影響を与えます。」

教会の状況により、寂しい、取り残されている、必要とされていないなどと感じることがあります。それは末日聖徒に限った現象ではありません。カトリックの著者デビッド・ミルズは、教会に通う人々が直面する問題について、「自分よりも富んでいる人や貧しい人、自分より学がある人やない人、異





なる人種、民族、年齢の人」と接するとき問題が起きると述べています。わたしたちは、ソーシャルネットワークにおける人間関係に関して、そういった人を自ら選んだのではない、とミルズは説明します。しかし、宗教的な献身には、自分が選んだわけではない人との交わりが含まれており、「ネットワークというよりはコミュニティのような、数少ない場となっています。……あなたはこのような人たちを愛すること学ばなければなりません。少なくとも、愛しなくても、優しく接しなければならぬのです。」<sup>2</sup> 宗教的なコミュニティの人々をブロックしたりフォローを解除したりすることができない場合、神に頼ることは、問題を克服する唯一の手段となることがよくあります。

マシューは、神に頼ることは、教会に活発に集い続けるために不可欠であることに気づきました。「教会に行き続けた唯一の理由は、キリストの証でした」と説明します。「福音はだれよりも大きなものです。キリストはわたしたちが見えないことを御覧になり、わたしたちがどのような人物になれるかを御存じです。そして、すべての人に居場所を用意しておられます。」

アメリカ合衆国南部の会員であるジャスミンは、こう言います。「わたしの生活にあまりにも干渉してくるワードの姉妹とうまくいかず、それが原因で教会から離れました。」しかし、幼い息子に対する心配が、教会に戻ることについての不安に勝るようになり、潮時だと思いました。「人が自分のこ

とをどう思うかを気にしてキリストから離れるのはやめよう。ワードのだれかから見下されていると感じるかどうかはどうでもいい」と思ったのです。

ある日曜日、ジャスミンは勇気を奮って激しい嵐の中を出かけて行きました。そして程なく、彼女の小さな家族は、イエス・キリストの教会で成長できるよう助けてくれる友人に受け入れられたと感じました。「教会を離れたことを後悔しています」とジャスミンは言います。「でも、諦めずに前進できたことに感謝しています。なぜなら、福音はほかの人のものでも、さらには自分のものでもないからです。福音は救い主のものです。」

#### くらやみ 暗闇に足を一步踏み出す——すると光が現れる

「生まれながらの人はこう言います。『光が動いて先が見えるようになるまで、暗闇に足を踏み出して進むなんて、とんでもない。』必要なことは、足が着地するときに光が動くことを期待しつつ、一步を踏み出すことです。」

——十二使徒定員会、デビッド・A・ベドナー長老

新会員にとって、将来どのようなことが待ち受けているかを確信できないうちに福音に根ざし続けるのは容易ではありません。台湾の主婦メイシンは、子供を世に迎えるようにという福音の勧告を通して、信仰のこの側面について学びました。子供をもうけることは、大きな一歩でした。なぜなら、「わたしの文化では、大勢の人が子供は1人しかもうけ



ないか、ペットを飼うかのいずれか」だからです。子供を身ごもる度に、メイシンは未知の世界に足を踏み出し、親戚や文化全体からの激しい批判を気にしないための信仰を必要としました。

しばしば、前進するためには、未知の世界に足を踏み出さなければならないことがあります。それは新たに教会員となった人に恐れを感じさせることがあります。その道を歩むときに主が助けてくださるという信頼を育むことが必要です。ベドナー長老は、不安や心細さを感じることは、学習と成長の過程の一貫として普通のことだと断言しています。しかし、家族を作ることや、教会に戻って来ることなど、未知の世界に足を踏み出すことは、特に恐れを抱かせることがあります。なぜなら、証は信仰の試しの後で得られるものだからです（エテル 12：6 参照）。メイシンと夫は、家庭を築いた後でそのような証を得ました。「子供たちがいて幸せですし、感謝しています」とメイシンは言います。「わたしたちは、質素な暮らしを営み、互いに助け合い、愛し合うことを学んでいます。子供たちをこの世に迎えられて感謝しています。」

ほとんどの場合、最初の数歩が最も困難なのです。ベドナー長老はこのように述べています。「初めて〔暗闇に一步を踏み出す〕とき、疑念ではありませんが、少々不安を感じます。少し心細く感じたりもします。それはごく普通のことです。」前進する過程が完全にスムーズではないかもしれま

せんが（ベドナー長老は、「一度も中断しない完璧なサイクルなど存在しません」と説明しています）、「規則に規則を加えて」徐々に成長し、それに伴って信仰も少しずつ増すのです。

前進するには練習が必要だ、と助言するのは、ロシアとヨーロッパの境の国、グルジアの改宗者、ラザレです。末日聖徒の友人を信頼するようになったことが、ラザレにとっての第一歩でした。その結果、ラザレは神権の祝福を受けることに同意しました。「それから、宣教師から受ける福音のレッスンへと進むことができました」と説明します。イエスキリストを信じるラザレの信仰が増すにつれ、「100 パーセントの確信はありませんでしたが、バプテスマという大きな一歩を踏み出しました。主はそれぞれの段階で勇気を下さいました。バプテスマを受けたことに心から感謝しています。」

### 決して諦めない

「あまりに多くの罪を犯した、またはあまりに遠く、あるいは長く、教会から遠ざかっていたために、輪に戻れないと感じている皆さんに宣言します。キリストの光が届かないほどの深みに落ちる人はいません。それは不可能です。」

—— 十二使徒定員会、ジェフリー・R・ホランド長老

ユタ州の敬虔な末日聖徒の家族で育ったブライアンは、教会は自分には合わないと感じていました。ブライアンはこう言います。「わたしはファンタジーゲームや映画、ロック音

楽が好きでした。スカウトや聖典やセミナー、スポーツは嫌いでした。」家を出られる年齢になるとすぐにアパートに移り住み、「性交渉や薬物など、この世のあらゆる物に手を染めました。」ブライアンが「ふしだらな生活と実験」と呼ぶ長い期間の後、ブライアンは経済的な問題に陥り、両親のもとへ戻りました。しかし、教会には戻りませんでした。

しかし、妹の誕生をきっかけに、ブライアンは自分の視点を再吟味しました。赤ちゃんを初めて抱いたときに、「単なる動物ではないことを悟りました。」幾分不安を抱えながら、ブライアンは、赤ちゃんである妹の祝福を見に教会へ行きました。聖餐が自分のところに回って来たときに、「聖餐を取らずに次の人に渡しましたが、自分の中で聖餐に対する霊的な飢えを感じていました。」

心の葛藤<sup>かっとう</sup>を整理するために、ブライアンは日記をつけ始めました。「夜遅くまで、霊的な心の葛藤について書きつづりました。すると、初めて霊的な経験をしました。しかし、それは良い方の経験ではありませんでした。」邪悪で、忌まわしい、怒りの力がブライアンの魂を捕らえようとしているのを感じました。「それをきっかけに、主が必要だと分かりました」と説明します。しかし、こんなにも道をそれてしまって「自分は主の助けや守りを受けるにふさわしいのだろうか」とブライアンは悩みました。また、再び聖餐を取れるようになるのだろうかや疑問に思いました。

教会に戻る道は、たやすくはありませんでした。たばこをやめることは簡単ではありませんでしたし、ビショップに告白するにも勇気が必要でした。また、昔からの友人や活動から離れるのも困難でした。家族もガールフレンドもビショップも、皆が助けくれましたが、最大の力の源はイエス・キリストだとブライアンは気づきました。

「主がわたしを心から助けたいと願っておられることに気づきました」と振り返ります。「昔の楽しみに代わって、新たな機会を得ました。福音に沿って生活しようと努力するほど、行く手が明らかになりました。」主を信頼し、主がブライアンを赦<sup>ゆる</sup>そう、癒<sup>いや</sup>そうとされていることに気づくと、聖餐はさらに重要な意義を帯びるようになり、救い主に近づくのを助けてくれました。「子供のときに何百回もパンと水を口にしましたが、やっと初めて聖餐を取ったような気持ちになりました。」

### だれもあなたの代わりはできない

車から降りて教会堂に入ること、ほかの会員に手を差し

伸べること、心の傷を乗り越えること、将来について確信がないまま福音に沿って生活すること、罪を告白すること——わたしたちは皆、命の木に至る、困難で不確かな道を歩いています(1 ニューファイ 8 章参照)。

救い主に従うという個々の決意は、安全に目的地に到着するために不可欠です。ともに集う教会員や指導者の励ましや愛、受け入れは重要ですが、わたしたちはそれぞれ、救い主に進んで従わなければならない経験をすることもありません。独りで従っているような気がするときにさえ、従わなければなりません。

イエス・キリストの教会に居場所を確保してください。人と比較せず、キリストに自分を交えていただき、やがて報われる信仰の道を歩み、戻るのが遅すぎることは決してないことを知ってください。「そして、キリストの言葉をよく味わいながら力強く進み、最後まで堪え忍ぶならば、見よ、御父は、『あなたがたは永遠の命を受ける』と言われる。」(2 ニューファイ 31:20) ■

筆者はアメリカ合衆国ユタ州在住です。

### 注

1. ディーター・F・ワークトドルフ「ともに集いましょう」『リアホナ』2013年11月号、21-24 参照
2. David Mills, "Go to Church, Meet Annoying People," Feb.1, 2017, aleteia.org/2017/02/01/go-to-church-meet-annoying-people





# イエス・キリストの 福音

## 避け所となり 守りとなる

セミナー・インスティテュート  
ジェットウリオ・ウォルター・  
ジャガー・エ・シルバ

**主**は、御自身の民を守りたいと望んでおられます。教会が激しい迫害を受けていたとき、主はシオンに集合することが、「**防御**のためとなり、また嵐……の**避け所**となるため〔に〕」どれほど大切かを強調されました（教義と聖約 115：6，強調付加）。

この避け所となり守りとなるものは、「これらの戒めを調べ」、イエス・キリストの福音に従って生活することによって見いだすことができます（教義と聖約 1：37）。そこで、教義と聖約に記されている原則の中で、**理解し、実践するならば**

わたしたちの守りとなり、誘惑や罪悪、日々遭遇するその他様々な危険からの避け所となる幾つかの原則について調べてみましょう。

### 聖霊を求めるときに 守られる

聖霊を**はかりよ**伴侶とすることで、世の避け所となり、守りとなるものを見いだすことができます。主はオリバー・カウドリに、啓示の賜物（**たまもの**）を「使う」ならば、「あなたを敵の手から救い出すからである。もしそうしなければ、彼らはあなたを殺し、あなたの霊を滅びに至らせるであろう」と言っておられます（教義と聖約 8：4）。オリバー・カウドリが御霊（**みなま**）の声によって死と罪から守られたことに注目してください。

また、聖霊の力によって真理を知ることで、わたしたちは人

の考えやサタンの偽りと欺きから守られます。主はこう約束しておられます。「賢くて、真理を受け入れ、**自分の導き手として聖なる御霊を受け**、そして欺かれなかった者、すなわち、まことにわたしはあなたがたに言うが、彼らは切り倒されて火の中に投げ込まれることなく、その日に堪えるであろう。」（教義と聖約 45：57，強調付加）聖霊の力は、わたしたちの心に真理を書き記し、わたしたちを欺きから守ります。

しかし、御霊の促しに耳を傾けたからといって、あらゆる試練から守られるわけではありません。教義と聖約第 122 章を読むと、たとえふさわしくても、悲しみや試練に直面することがあることが分かります。「これらすべてのことを御存じ」である神の視点と知恵からすれば（教義と聖約 127：2）、「これら

のことはすべて、〔わたしたち〕に経験を与え、〔わたしたち〕の益となるであろう。〕(教義と聖約 122:7)

### 生ける預言者に従うときに守られる

教会が設立されたとき、主は聖徒に対して預言者の言葉に耳を傾けるよう命じられました。

「彼がわたしの前を完全に聖く歩み、わたしの言葉と戒めを受けるとき、あなたがた教会員は、彼があなたがたに与えるそれらのすべてを心に留めなければならない。

あなたがたは忍耐と信仰を尽くして、あたかもわたし自身の口から出ているかのように、彼〔すなわち、教会の大管長の〕言葉を受け入れなければならない。

これらのことを行えば、地獄の門もあなたがたに打ち勝つことはないからである。そして、主なる神はあなたがたの前から闇の力を追い払い、また、あなたがたのためと、神の名の栄光のために天を震わせるであろう。〕(教義と聖約 21:4-6)

主は教義と聖約の中でこう言っておられます。「主の声もその僕たちの声も聞こうとせず、**預言者たちや使徒たちの言葉も心に留めようとしない者たち**が、民の中から絶たれる日が

来る。〕(教義と聖約 1:14, 強調付加)

生ける預言者の教えに耳を傾け、それを実践するときに、守りと安全がもたらされます。というのも、生ける預言者は現在の問題について語るとともに、こうした試練を克服するために何をすべきかを教えてくれるからです。主の生ける預言者がいるとは、何とすばらしい祝福でしょうか。

教義と聖約 101:43-62 で、主はオリーブ園のたとえを用いて、生ける預言者の言葉に耳を傾けることの大切さについて説明しています。このたとえで、預言者は見張り台の上の見張り人にたとえられています。古代において人々は、町を見渡し、敵が近づいてきたら人々に警告することができるよう、見張り台を築きました。

このたとえはこんな風に始まります。「一つの見張り台を築いて、**その台の上で見張り人となる者が**周りの土地を見渡せるようにしなさい。このようにして、敵がやって来て、わたしの果樹園の実を奪って自分のものにしようとするときに、わたしのオリーブの木が折り倒されることのないようにしなさい。」(45 節, 強調付加)

十二使徒定員会の M・ラッセル・バラード長老は、生ける

教義と聖約の教えには、  
主の再臨に備える際に  
直面する数々の困難から  
わたしたちを  
守る力があります。

預言者の助言に従うときにもたらされる守りと祝福について次のように述べています。「兄弟姉妹、神の預言者がわたしたちに与えられているのは、決してささいなことではありません。……すなわち、教会の大管長の言葉を通して示される主の勧告を聞いたなら、わたしたちは前向きに、即座に従う必要があるのです。いにしへのニーファイがそうであったように、預言者の勧告に従うとき、安全と平安、繁栄と幸福がもたらされることは、歴史から明らかです。」<sup>1</sup>

預言者の言葉に耳を傾けることによってもたらされるもので、



物質的な守りよりも大切なのは、霊的な守りです。この守りはぜひとも必要です。というのは、「サタンもあなたがたを打ち破るために、あなたがたを欺こうと努めてきた」からです（教義と聖約 50：3）。預言者の言葉に耳を傾けることによって、わたしたちは世の哲学と「欺こうと待ち伏せる人々の狡猾な悪巧み」から守られます（教義と聖約 123：12）。

#### 結婚の聖約に忠実であることによって守られる

主は、結婚の新しくかつ永遠の聖約は永久に変わらないと約束しておられます（教義と聖約 132：19 参照）。昇栄の教義は、今日の世にはびこる誤った男女観からの避け所となります。世の中では、結婚は時代遅れで不便、あるいは不必要であると主張する声がかさかから聞こえます。しかし、主の声はこう宣言しています。「だれでも結婚を禁じる者は、神から聖任されていない。結婚は人のために神によって定められているからである。」（教義と聖約 49：15）。

主は結婚生活を守る方法をこう教えておられます。「あなたは心を尽くして妻を愛し、妻

と結び合わなければならない。その他のものと結び合ってはならない。」（教義と聖約 42：22）

スペンサー・W・キンボール大管長（1895 - 1985 年）は、この戒めにすべてが包含されると説明しています。

「主が心を尽くしてと言われるとき、それはほかのものに心を許すことも、心を分かち合うことも、あるいは心を奪われることも許されないことを意味します。また、女性に対しては次のように言い換えることができます。『あなたは心を尽くして夫を愛し、夫と結び合わなければならない。その他のものと結び合ってはならない。』

その他のものと結び合ってはならないという言葉は、すべての人とすべてのものを排除することを意味します。そして伴侶は夫または妻の生活の中で最も大切な存在となり、社交も、職業も、政治も、そのほかのどのような関心事も、人も、ものも、決して伴侶より優先することがあってはならないのです。」<sup>2</sup>

わたしたちが目にするものは、善くも悪くも、わたしたちに大きな影響を及ぼします。だからこそ、主は次のような言葉でわたしたちに警告されたのだと思います。「情欲を抱いて女を見る者は、信仰を否定するので

あり、御霊を受けることはない。もしも悔い改めなければ、彼は追い出されなければならない。」(教義と聖約 42:23, 強調付加)

敵の攻撃から守られるためには、目も心も伴侶と主だけに向けなければなりません。伴侶以外の人に視線をさまよわせたり、浮気心を抱いたりしてはなりません。そのような誘惑から自分を守るためには、心と思いに鍵かぎをかける必要があります。これが結婚生活を成功に導く主の方法です。

### 宣教師として仕えるときに守られる

教会では仕える機会がたくさんあり、主は「〔御自分〕に仕える者に誉れを与えるのを喜びと〔されます〕。」(教義と聖約 76:5) 宣教師として仕えることについて、教義と聖約には偉大な原則が教えられています。

主はこう約束しておられます。「行って王国のこの福音を宣のべ伝え、あらゆる点で引き続き忠実である者は、心が疲れることも暗くなることもなく、体や手足や関節が疲れることもない。髪の毛一筋も、知られずに地に落ちることはない。また、これらの者は飢えることも、渴くこともない。」(教義と聖約 84:

80) 主は困難を免除してはくたさませんが、わたしたちを守ると約束してくださっていることに注目してください。

そしてこう付け加えておられます。「わたしはあなたがたの右におり、また左にいる。わたしの御霊はあなたがたの心の中にある。また、わたしの天使たちはあなたがたの周囲にいて、あなたがたを支えるであろう。」(教義と聖約 84:88) 御自分に仕える人に主はこう約束しておられます。「力があなたに宿るであろう。あなたは大いなる信仰を持ち、わたしはあなたとともにいて、あなたに先立って行くであろう。」(教義と聖約 39:12) 宣教師として心から喜んで仕える人には、「霊的にも物質的にも祝福され〔る〕』という約束が与えられています(教義と聖約 14:11)。

また、宣教師として仕える人の家族にも、主は同じ守りをお与えになります。「主なるわたしは彼らに、わたしがその家族に必要なものを与える」と約束をしよう。またその後、効果的な門が彼らのために開かれるであろう。」(教義と聖約 118:3)

また、忠実な宣教師には次のような約束が与えられています。「あなたの罪は赦ゆるされて、あなたは背に束を積まれるであ

ろう。」(教義と聖約 31:5) このような祝福は、わたしたちの霊の避け所となります。

### 什分じゅうぶんの一の律法に従うときに守られる

教義と聖約には、什分の一に関する次のような教えが記されています。「見よ、今、人の子の来臨までは今日と呼ばれる。まことに、今日は犠牲の日であり、わたしの民が什分の一を納める日である。」(教義と聖約 64:23)

わたしの口癖ですが、什分の一の律法は数学とは違います。90が100よりも大きくなるからです。収入の10分の1を主に差し出す人に、主は「天の窓を開いて、あふるる恵みを、あなたがたに注ぐ」と約束しておられます(マラキ 3:10。3 ニーフアイ 24:10 も参照)。

什分の一の律法に対する態度を通して、わたしたちの信仰の強さが分かります。什分の一を納めることは金銭の問題というよりもむしろ信仰の問題なのです。

大管長会のヘンリー・B・アイリング管長はこう述べています。「什分の一を完全に納めようと今決意し、たゆまず納め続ける努力をするならば、信仰は強められ、いずれ心が和らげら

見張り台の見張り人のように、  
預言者は遠くを見渡し、  
敵が近づいて来るときに  
警告します。

れます。これは金品をささげたからではなく、イエス・キリストの贖いあがなを通じてもたらされる心の変化です。この心の変化によって、什分の一を完全に納める者を終わりの時に守るという主の約束が成就します〔教義と聖約 64：23 参照〕。什分の一を今納めようと決心し、たゆまず納め続けるならば、この守りの祝福を受けるにふさわしい者となれるという確信が得られます。〕<sup>3</sup>

#### 知恵の言葉に従うときに 守られる

わたしたちは多くの危険な物質によって健康が脅かされる時代に生きています。将来起きることを御存じの主は、1833年、預言者ジョセフ・スミスにこう教えられました。「終わりの時に陰謀を企てる人々の心の中に今あり、また将来もある悪ともくろみのゆえに、わたしはあなたがたに警告を与えており、また、啓示によりこの知恵の言葉を与えることによって、あなたがたにあらかじめ警告するものである。」〔教義と聖約 89：4〕

主の健康の律法に従う人は「これらの言葉を守って行くことを覚え、数々の戒めに従順に歩むすべての聖徒たちは、そのへそに健康を受け、その骨に髓を

受けるであろう。また、知恵と、知識の大なる宝、すなわち隠された宝さえ見いだすであろう。また、走っても疲れることがなく、歩いても弱ることはない。」

また、主はこの律法に従う人に安全を約束しておられます。「主なるわたしは彼らに一つの約束を与える。すなわち、滅ぼす天使はイスラエルの子らを過ぎ越したように彼らを過ぎ越して、彼らを殺すことはない。」〔教義と聖約 89：18 - 21〕

この約束は、わたしたちが死なないという意味ではありません。死は永遠の計画に欠かさない要素だからです。しかし、「その昔に墮落したエジプト人をその悪のゆえに悩ましたように〔出エジプト 12：23, 29 参照〕、不義な人々の罪を罰するために……訪れる……滅びの天使は、……聖徒たちを過ぎ越すことでしょう。」<sup>4</sup>

#### 聖なる場所に立つならば 守られる

主はわたしたちに「聖なる場所に立〔つ〕」よう何度も命じておられます〔教義と聖約 45：32；87：8；101：22 参照〕。確かに、神殿は聖なる場所です。ジョセフ・フィールディング・スミス大管長（1876 - 1972 年）は次のように教えています。



「自分が何をしているのかよく理解しているならば、エンダウメントはわたしたちすべてにとって生涯にわたり守りとなるでしょう。この守りは神殿に行かない人は得られないものです。

わたしは父〔ジョセフ・F・スミス大管長〕がこう言うのを聞いたことがあります。『自分は試練や誘惑を受けるとき、主の家で交わした約束と聖約について考える。それらは自分を守ってくれる。』<sup>5</sup>

神殿とともに、集会所として用いられる礼拝堂、教室、そして家庭も聖なる場所として奉獻されています。これらの場所は、そこに住む人々が清い心を持ち、神の戒めに従って生活するならば聖なる場所となります。戒めを守るとき、わたしたちは聖霊を伴侶とし、聖霊から導きと慰めを受けることができます。聖霊を常に伴侶とすることができるならば、わたしたちは必ずや聖なる場所に立つことができるのです。

## 終わりに

教義と聖約には、こうした原則を学び、それらの原則に従って生活しようと努力するとき、イエス・キリストの福音がわたしたちに提供してくれる様々な

形の守りが記されています。このような守りをどこで見いだせばよいかと尋ねる人がいるかもしれませんが。

主は、聖徒に愛と<sup>あわ</sup>憐れみを示し、聖徒とともにいと約束してくださいました。「幼い子供たちよ、元気を出しなさい。わたしはあなたがたの中におり、あなたがたを見捨てていないからである。」(教義と聖約 61:36)「……聴きなさい。主なるあなたがたの神、すなわちイエス・キリスト、あなたがたの弁護者、人の弱さを知っており、誘惑を受ける者たちを助ける方法を知っている者は言う。」(教義と聖約 62:1)

救い主イエス・キリストの<sup>しよく</sup>贖罪とその教えを生活に応用するならば、守りを受け、避け所を見いだすことができます。この守りと避け所は、わたしたちに重荷を取り除き、罪と困難を克服し、自らを聖徒とする力を与えてくれます。■

筆者はブラジル、クリティーバ在住です。



## 注

1. M・ラッセル・バラード「彼の言葉を受け入れなければならない」『リアホナ』2001年7月号、80
2. 『歴代大管長の教え—スベンサー・W・キンボール』199
3. ヘンリー・B・アイリング「霊的な備え—早くから始め、絶えず積み重ねる」『リアホナ』2005年11月号、40
4. J. Reuben Clark Jr., in Conference Report, Oct. 1940. *Doctrine and Covenants Student Manual* (教会教育システム、2001年) 211も参照
5. Joseph Fielding Smith, "The Pearl of Great Price," *Utah Genealogical and Historical Magazine*, July 1930, 103. *Doctrine and Covenants Student Manual* 259も参照

## クリスマスに救い主の愛を分かち合う

**教**会が主催した2016年の「Light The World—光となりましょう」クリスマスキャンペーンは、わたしにとってわくわくする体験でした。毎日の課題を達成するのが楽しく、特に、5日目のテーマ「主は病の人を癒された」を心待ちにしていました。

その日、仕事が終わると、わたしは祖父母に会うつもりで薄暗い街の通りを歩いていました。とてもいい気分でした。クリスマスの時季で、辺りはどこも美しく輝いていました。寄付を募る鐘の音が鳴り響いていました。路面電車の乗り場に近づくと、鐘の音は、鐘を鳴らす人を大声でどなりつけるホームレスの女性の声にかき消されてしまいました。

「あんたは偽者だ!」と彼女は叫んでいました。「あたしは空腹でござえてるっていうのに、あんたは寄付を独り占めしてる。あんたは偽者だ。」

たいていの人は彼女には目もくれず、鐘を鳴らす人も鐘を鳴らし続けました。わたしもヘッドホンをつけたのですが、それでもその女性が叫び続ける声が聞こえました。「あんたは偽者だ。おなかがすいたよ。寒いよ」と。

わたしはポケットに20ドル札が入っていることを思い出し、その女性にあげようかなと思いました。「だめだ。だれかにあげるとしても、感じのいい人にあげるべきだ。」そう考えました。そのとき、御霊がその日の課題と、自分がどなたのようになろうと努力しているのかを思い出させてくださいました。

**そ**の女性に向かって歩きました。  
女性は叫ぶのをやめ、  
目から涙をこぼしていました。

イエスは王の王であられたのに、最も弱い立場の人々に奉仕なさったのです。わたしは何をすべきか分かりました。

その女性に向かって歩いて行くと、女性は叫ぶのをやめ、閉じた目から涙をこぼしていました。わたしはポケットから20ドル札を取り出すと、彼女に渡しました。

「大変な一日だったのですか」と聞いてみました。

わたしを見上げると、彼女は「まあね」と答えました。

「お気の毒に。」そう言って彼女を

両腕で抱き寄せると、路面電車が来るまで、彼女はわたしの肩に寄りかかって泣きました。

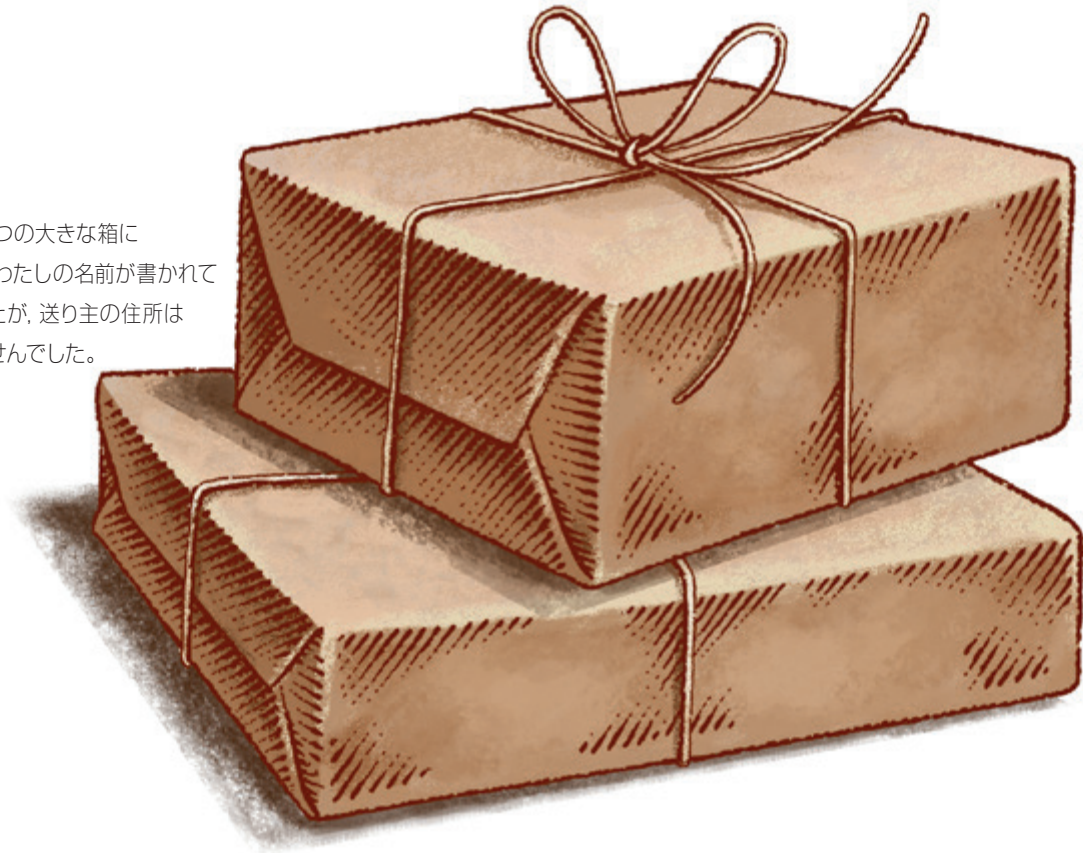
そして別れを告げるとき、「ありがとう」と言ってくれました。「お金のことだけじゃない。ハグしてくれてありがとう。ハグが必要だったんだ。」

通りで知らない人をハグすることはわたしの予定になかったことですが、イエスならきっとそうされたと思います。主がされたであろう方法で奉仕する機会を主が下さったことに感謝します。イエスは病人や、貧しい人、助けの必要な人をお助けになりました。わたしも同じようにできるのです。■

ジョーダン・ライト (アメリカ合衆国, ユタ州)



— つの大きな箱に  
 — わたしの名前が書かれて  
 いましたが、送り主の住所は  
 ありませんでした。



## わたしあてのクリスマスパッケージ?

2003年のクリスマス、わたしはカリフォルニア州サクラメント伝道部で専任宣教師として奉仕していました。わたしの同僚や同じアパートに住む二人の姉妹宣教師のもとに、親族や友達から贈り物や手紙が届き始めていました。しかし、わたしには何も届かないことを知っていました。

アルゼンチンにいる家族は貧しく、手紙はたいてい2、3か月遅れで届いていたからです。家族と遠く離れていましたが、イエス・キリストに仕えながらクリスマスを過ごすことを幸せに思っていました。

クリスマスイブの日、寝る支度をしていると、わたしあての荷物が玄関に置かれていると、一人の姉妹が教えてくれました。

「わたしあて? そんなはずはない

わ!」とわたしは驚きました。

二つの大きな箱にわたしの名前が書かれていましたが、送り主の住所はありませんでした。わたしの胸は高鳴り、ほかの姉妹たちも一緒に喜んでくれました。箱を開けると、贈り物やお菓子、子供の絵など、いろいろなものが入っていました。わたしは涙を抑えられませんでした。

「だれが贈ってくれたのかしら?」と不思議に思いました。だれも心当たりはありませんでしたが、皆で贈り主の寛大な心遣いを喜びました。

クリスマスから数日たっても、まだ贈り主が分からずにいました。そこで伝道本部に電話し、秘書の姉妹に、謎の贈り主の名前を知らないか尋ねました。彼女によると、匿名で何かしたいと思ったあるワードの会員が、ク

リスマスのプレゼントを入れた箱をわたしに贈ることにしたのだそうです。あのクリスマスイブにたくさんの愛を贈ってくれたワードの会員の心遣いと、伝道中に受けた支えに、ずっと感謝し続けることでしょう。

教会のすべての会員は、家から遠く離れた場所にいる宣教師にも、励ましと奉仕によって安らぎを与えることができることを知りました。わたしの人生で最高のクリスマスとなりました。救い主に仕え、教会員を通して主の愛を感じたのです。■

エリサベト・アンダーセン・ボガド  
 (アルゼンチン、ネウケン)

## 娘に見えていたクリスマス

**納**屋で催されたキリストの降誕劇を家族と一緒に見に行ったとき、だれもが穏やかな気持ちに包まれました。納屋の仕切りに家畜が並び、ヨセフとマリヤにふんした男性と女性が立っていて、女性の腕の中には赤ん坊が抱かれています。二人は静かに赤ん坊を見詰めています。納屋全体が平安に満ちていました。

年長の子供たちと妻とわたしは立って見物し、末の娘はわたしたちの前にある干し草の束の上に座りました。娘は身動きせずに静かに座り、じっと赤ん坊を見詰めています。家族が帰り支度を始めたので、わたしは娘の肩に手を置き、帰るよとささやきました。娘は赤ちゃんのイエスさまといたいと言いました。娘の言葉に心を打たれたわたしは、一緒にいることにしました。

数分後、娘の手を優しく取り、帰らなければならないと言いました。娘はまだいたいと言うので、わたしは娘の肩に腕を回して、隣にひざまず

**娘**は身動きせずに  
静かに座り、  
じっと赤ん坊を  
見詰めています。

きました。

すると、次の瞬間、わたしは過去にタイムスリップをして、マリヤとヨセフと一緒にいるような気持ちになりました。娘がなぜそこにいたいと思うのかが分かりました。御霊がわたしに降り注ぎ、その場所で、自分が救い主の前にいるように感じました。主の愛を感じ、目に涙が浮かびました。とうとう帰る時間になり、わたしは娘を抱き上げました。出口へと向きを変えたとき、娘が赤ん坊のイエスに別れのあ

いさつをし、愛していると伝えるのが聞こえました。

その夜、わたしは娘とともに生涯忘れることのない大切な経験をしました。しかも、その機会を危うく逃すところでした。その夜、賜物を授かったのです。神が近くにおられ、わたしを愛しておられるのを感じました。救い主とその降誕を思い起こす機会があったことに感謝



## 救い主にささげる家族の贈り物

しています。救い主の生涯、模範、贖罪は、神がすべての子供たちに注がれる、絶えることのない愛のすばらしい賜物であることを知っています。わたしはいつも心の中でこの賜物を大切に思うことでしょう。■

アロン・アダムズ  
(アメリカ合衆国、サウスカロライナ州)



12月が近づくとつれて、わたしは慌ただしいクリスマスシーズンの準備に追われました。ここ4年間、クリスマスのお祝い事を自宅で開催していましたが、今年はいっぱいいっぱいでした。プレゼントの購入、食事の用意など、やらねばならないもろもろのことについて夫に相談すると、今年のクリスマスはパーティーをやめて何かほかのことをしよう、という話になりました。救い主への贈り物となるようなことをしたいとわたしたちは考えました。

12月の間ずっと、家庭の夕べでイエス・キリストの生涯について採り上げ、神殿に行き、家族で奉仕するプロジェクトを計画しました。夫は当時ビショップであったため、クリスマス日には、夫を亡くしたワードの姉妹たち皆のために歌を歌うことに決めました。歌う賛美歌を何曲か、家族で練習し始めました。子供たちは「天を降りし神の御子」(『賛美歌』120番)を歌うことが大好きでした。

クリスマスイブには、特別なクリスマスのメッセージを添えたカードを作り、訪問先に持っていくお菓子を用意しました。家族がこんなに一つとなって、愛をもって喜んで奉仕する様子を見るのは、とてもうれしいことでした。クリスマスの精神を感じました。

クリスマスの日になると、子供たちは姉妹たちを訪ねたくてたまらない様子でした。1軒ずつ訪問するごとにわたしたちは幸福になり、歌うごとに賛美歌がうまくなっていくような気がしました。最後の家に着くと、留守のようでした。数分待っていると、子供たちがそわそわし始めました。しばらくして、高齢の女性が出迎えてくれました。髪をきっちりとかし、よそ行きの服を着ています。わたしたちを見ると、目に涙があふれました。わたしも感極まって、歌うどころではありませんでした。

家に帰る道すがら、5歳の娘は、まだ帰りたくない、歌っていたいと言いつつ出しました。わたしが答える前に、9歳の息子が「来年もやればいいじゃないか」と答えました。

わたしたち家族にとって、忘れ難いクリスマスとなりました。人を元気にし、イエス・キリストへの愛を示したのですから。その日起こったことを思い返すと、主の愛を感じるとともに、主の言葉を思い出しました。「わたしの兄弟であるこれらの最も小さい者のひとりにしたのは、すなわち、わたしにしたのである。」(マタイ25:40) ■

マリア・アパレシダ・デ・キヤマ・シルバ  
(ブラジル、サンパウロ)



2016年にペンシルベニア州フィラデルフィア  
神殿が奉獻されたことにより、ジョセフィン  
は毎週参入できるようになりました。神殿で、  
人生の困難に取り組むための強さと癒しを得て  
います。

写真撮影、レスリー・コルソン

## ジョセフィン・スキーラー

アメリカ合衆国、ペンシルベニア州

わたしは生まれながらに苦勞を負って  
いました。母はリベリアからの移民  
で、わたしたちは貧乏でした。わたし  
は子供のころ、母が信頼できそうだと  
思った人たちに預けられましたが、そ  
の人たちに虐待を受けました。このた  
めに、とてもつらい人生になりました。

福音に従って生きる決意を固く持ち  
続けてこられたのは、試練があったお  
かげです。

末日聖徒であってもそうでなくて  
も、人生は楽ではありません。わたし  
の強さは救い主とのきずなと、息子エ  
ノクとのきずなから来ています。神殿  
で交わした聖約を守ることも、強さを  
与えてくれます。

何しろ眞実は眞実なのです。言い争  
う必要も、証明する必要もありません。  
ただ、そうなのです。ほんとうであり、  
だれにとってもほんとうなのです。ユ  
タ州ソルトレーク・シティーに住む  
人々にとっても、フィラデルフィアの  
スラム街に住む人々にとってもほんとう  
なのです。わたしたちを駆り立てるの  
はその福音であるべきだと思います。

# モンゴلز・ ゴット・タレント!

ポー・ニエン(フェリーペ) チョウ,  
ペトラ・チョウ,  
オドゲレル・オチリヤブ

昨年12月に、モンゴルのウランバートル東および西ステークの合唱団が全国ネットで配信されている『モンゴلز・ゴット・タレント』というテレビ番組で準決勝まで進みました。その合唱団はセミナーとインスティテュートの生徒たちで構成されており、半数が帰還宣教師なのですが、彼らは自分たちの信条や才能をこのような形で分かち合う機会に恵まれるとは夢にも思っていませんでした。

2015年に、地域七十人がモンゴルを訪れ、教会の広報活動に関する訓練を行いました。モンゴルウランバートル西ステークのオドゲレル・オチリヤブ会長は、どのように広報活動を進めればよいのか分かりませんでした。そのようなとき、2016年1月に、彼の義理の兄弟から電話があり、「『モンゴلز・ゴット・タレント』を見ていたんだけど、……君の教会の聖歌隊が出場すべきだ」という思いを強く感じたんだ」と言われました。

オチリヤブ会長は、聖歌隊の指導者であるウヌルヤルガル・プレブ姉妹とその考えについて話し合いました。

可能性について、彼女も聖歌隊のメンバーも興奮していました。彼らは「シオン」(モンゴル語で御霊、信仰、思い、一致という言葉の頭文字を取って「SION」という名の合唱団として知られるようになりました。

## 第1次予選

2016年3月に行われた第1次予選では、二つの曲を組み合わせた歌を披露しました。審査員の一人はこう述べました。「みんなの顔が輝くのが見えたよ。……君たちの動画をユーチューブに投稿して、世界中の人にこの番組を紹介する必要があるね。」

もう一人の審査員は彼らが優勝賞金の5万ドルを手にしたら、どうするか尋ねました。彼らが、すべての賞金を孤児院に特別なクリスマスの贈り物として寄付したいと答えると、驚いていました。

## 第2次予選

「シオン」は400組の参加者のうち、第2次予選に進む200組に選ばれましたが、予選の日は35人のメンバーのうち半数が参加予定であった複合ステークのユースカンファレンスの日と重なってしまいました。合唱団は2次予選に参加する

モンゴルでは  
教会の知名度は  
それほど高くありませんが、  
この合唱団によって  
大きく変わりました。

ことを決め、バスを手配して予選で歌った後に、8時間かけてユースカンファレンスに向かいました。

「シオン」は、200組の中から準決勝に進む32組に選ばれました。合唱団は『モンゴلز・ゴット・タレント』に関連するソーシャルメ





ディアで注目されるようになりました。

## 準決勝

彼らは準決勝の舞台に向けて、6月から9月まで練習を重ねました。準決勝の当日、彼らは摂氏マイナス34度の気温の中、朝4時に起きました。合唱団のメンバーであるノムウンゲレル・エンクツブシン姉妹はこう述べています。「わたしたちのグループのかなりの人が風邪を引きました。でもみんなで彼らのために祈ると、次第に良くなりました。」

番組を見た人々が、モンゴルの各地からメールで投票しました。

シジル・プレブドルジュ兄弟は次のように述べています。「このテレビ番組のおかげで、多くの人々が教会に対してとても好意的に感じてくれるようになりました。」

## 祝福

合唱団のメンバー自身も祝福を受けました。オドゲレル・トゥムルスク兄

弟は述べています。「わたしたちはこの1年間、仕事や生活におけるほかの予定を管理しながら、自分たちの熱意と時間をささげてきました。大変なこともありました、多くの祝福を受けました。時間の管理をして、主にささげる時間を作ることを学びました。」

信仰が強まっただけでなく、合唱団のメンバーたちは自信を得て、新たな友情を築き、一致の精神を学びました。「合唱団として歌うことによって、お互いに赦し合い、支え合うことを学びました。そしてより一致することができました」とガンバートル・ウルジドゥーレン兄弟は述べています。ビルグーンザヤ・ツンガラクトゥール姉妹は「自分自身を疑ったり、何か自分がにはできないと決して思うべきではない」ということを学びました。

バヤルツォグト・ラグバヤブ兄弟は、「この合唱団で歌うことによって家族にも祝福がもたらされましたし、自分がしばらく前から求めていた答えを受け取る助けにもなりました。指導者が解決法を示してくれて、……わたした

ちの指導者が神から召されているという証<sup>あかし</sup>が強まりました」と述べています。

オノン・ダラクウ姉妹は次のように説明しています。「わたしが『モンゴルズ・ゴット・タレント』に参加したときに、お互いに励まし合って、助け合うことが成功の鍵<sup>かぎ</sup>だということを学びました。」ダラクウ姉妹は参加者をまとめる割り当てを受けていたので、この経験を通してリーダーシップのスキルが強化されたのです。彼女はこう述べています。「わたしたちは主が導いて、影響を与えてくださっているのを感じました。わたしたちの多くが、体調を崩したり、忙しかったり、疲れていたり、圧倒されたりしていました。それでも、みんなで一緒に祈ったときに、堪え忍ぶために必要な力や望みを見いだすことができました。」

得票数が足りず、決勝に進むことはできませんでしたが、彼らの演奏はモンゴル全土に教会を知らしめる特別な機会となったのです。オチリヤブ会長はこう述べています。「わたしたちは神権指導者からの割り当てに従い、主が道を備えてくださいました。……

今、ウランバートル中で、モルモンの合唱団が『モンゴルズ・ゴット・タレント』に出場したことが話題になっています。」■

筆者はアメリカ合衆国ユタ州とモンゴルのウランバートルに住んでいます。



# 救い主への贈り物

チェルスタン・ピクストン

**冬**のロシアは大変寒く、曇りの日が多いため、毎日が暗く、みじめな気持ちにさせられます。11月の終わりのこと、気がめいるような天気に加えて、わたしは孤独で、自分の力不足から、良い宣教師になることはできないと感じていました。わたしはトレーナーとして、新しい同僚を訓練する割り当てを受けたばかりでした。ハート姉妹は素晴らしい同僚でしたが、わたし自身は、ロシア語をもっと学ぶことや、良い模範になること、教える人をとにかくだれか見つけなければならないことに対するプレッシャーを感じていました。

新しい伝道部会長が、わたしたちがいるベルミから5時間ほどかかるエカテリンブルクでゾーン大会を開く予定だという知らせを受けたばかりでした。12月の寒い早朝に、ハート姉妹とわたしは駅に向かいました。

駅で待っている間、わたしは自分が感じている気持ちについて深く考えま

した。間もなく訪れるクリスマスや、恋しい家族について考えていました。伝道に対する熱意は薄れ、これまでの9か月間で宣教師として成し遂げたことはほとんどないと感じました。ようやく電車の到着のベルが鳴り、わたしたちは電車に乗り込んで席に着きました。そのとき、救い主について考えている自分に気がつきました。わたしは目を閉じて、自分が感じているこのような気持ちを取り除き、主にもっと思いを向けることができるようにお祈りしました。

翌日のゾーン大会でのラスト伝道部会長のお話はすばらしく、心を打たれました。ラスト姉妹のお話は、救い主が羊飼いであり、群れからはぐれてしまった一匹の羊を捜して、群れに連れ戻してくださるという簡潔な内容でした。ラスト姉妹は、救い主がわたしたちのために払われた犠牲について話し、最後に、わたしたちも宣教師として、主の迷える羊を連れ戻すことによって主に仕える機会があるというこ

わたしは宣教師として  
自分が不十分だと感じました。  
自分自身に  
目を向けるのをやめて、  
救い主に思いを  
向けるようにするには  
どうすればよいでしょうか。

とについて力強い証<sup>あかし</sup>を述べました。そしてわたしたちが救い主にどんなクリスマス<sup>クリスマス</sup>の贈り物をする<sup>クリスマス</sup>ことができるか考えるように勧めました。

そのチャレンジを受けたとき、わたしが救い主にささげることができる贈り物は、ただもっと多くの人々に話しかけるということだと、これまでにないほどの強い促しを感じました。それまでわたしは、見ず知らずの人に



話しかけるのに抵抗があり、特にロシア語で話しかけるのに恐れを感じました。彼らの言っていることを理解できないと思われなくなかったので、話しかけないほうが楽だったのです。しかし、その瞬間に、自分が何をすべきかはっきりと分かったのです。自分自身について考えるのをやめ、わたしの兄弟姉妹たちについて考える必要がありました。わたしはその月の残りの期間、交通機関に乗る度にだれかに福音について話すことに決めて、それを救い主へのクリスマスの贈り物としてささげることになりました。

翌朝、ハート姉妹  
とベルミへ戻る  
電車の中で、  
隣に座った

人たちに話しかけて、自分で立てた目標を果たし始めました。彼らはわたしの話にそれほど興味を示しませんが、少なくともわたしは自分のできることを行いました。

救い主への贈り物をささげようとするなかで、日々困難に直面しましたが、少しずつ自分が幸せを感じ、自信を取り戻しているのを感じました。つまり、自分が宣教師としての召しをもっと果たせるようになっていくと感じました。クリスマスが過ぎてからも、人々に話しかけるのを続けようとして決心しました。交通機関に乗ったと

きだけでなく、通りでもお店で

も、図書館でも、どこでも人々に話しかけるようになっていきました。

もっと多くの人々に話しかけたことによって教える人が見つかったわけはありませんでしたが、それでも人々に福音の種を植えていると感じました。バスの運転手や近くの食料品店の人々などと仲良くなることができました。うれしかったのは、彼らに再び会うと、彼らは笑顔で、わたしたちよりも先に向こうから声をかけてくれたことです。わたしたちが彼らに植えた種は、彼らに福音を知る新たな機会が訪れたときに、いつか花開く時が来ると信じています。天の御父は、小さくて簡単な方法で御業を進められますが、それは時にはただ「こんにちは」と言うことから始まります。

エカテリブルクへ向かう電車に乗っていたときのことを、今振り返ってみると、天の御父がわたしの祈りにこたえてくださったことに気がつきました。天の御父は、伝道の業はわたし自身ではなく、ほかの人々に目を向けるものであり、自分の心配事や悲しみよりも他人を優先させるときにわたしたちが求めている幸せを見いだすことができることを教えてくださいました。わたしたちがたとえ自分のすべてを救い主にささげようとしたとしても、主はその何百倍もの祝福を与えてくださるということは、何とすばらしいことでしょうか。■

筆者はアメリカ合衆国アイダホ州在住です。



# 再び信仰を見いだす

戻ることはいつも簡単とは限りませんが、  
いつでも戻ることができます。

教会機関誌

デビッド・ディクソン

**モ**ルモン書の中で、「禁じられた道に踏み込んで姿が見えなくなってしまった」(1ニーファイ8:28)という言葉を読むと、恐らくほとんどの人は、あまり希望があるとは思えないでしょう。実際、希望とはまったく逆の意味の言葉だと感じます。リーハイの命の木の示現で描かれている、木の実を味わってから離れていってしまったこの人々が、希望のない結末を迎えるのを容易に想像できます。

しかし、ニュージーランドに住むテ・オラノア・M(17歳)は、違う見方をしています。「この聖句を読んで感動したのは、彼らは永遠に失われてしまったとは書かれていないことです」と彼女は話します。

何とすばらしい洞察でしょう。それは個人的な経験から来るものです。「わたし自身、教会から離れていました。でも、戻って来ることができました。」

## 少しずつ弱まる

テ・オラノアは教会で育ち、自分自身の証<sup>あかし</sup>を得ることについて話したり、霊的な目標まで設定したりしていました。「でも、その証は弱くなってしまいました。」

彼女は自分の中に、アミュレクとの共通点を見つけました。特に、アミュレクがアモナイハの人々に自分自身について語ったところ。「わたしは、心をかたくなにした。幾度となく

呼ばれたが、わたしは聞こうとしなかった。だからわたしは、これらのことについて知っていながら、知りたと思わなかった。」(アルマ10:6)

テ・オラノアにとって、その聖句はとても共感できました。「アミュレクのように、わたしはこれらすべての霊的な事柄を知っていましたし、御霊<sup>みなたま</sup>がわたしにこうした方がよいといろいろ勧めましたが、わたしはちょっと頑固で高慢になっていたの、そうしました。それ以降、わたしの証は弱くなりました。」

結局、アミュレクの物語はテ・オラノアにとって単に身近に感じる以上のものとなり、教会へ戻るきっかけともなりました。

## 心温まる思い出を見つける

信仰が弱くなっていくときでさえ、彼女は以前の心地よい経験を思い出すことができました。テ・オラノア

は、青少年のグループで神殿参入したり、ユースカンファレンスに参加したりしたときの気持ちを忘れたことはありませんでした。

「パターンがありました」と彼女は言います。「教会に来るとほんとうに良い気持ちがしましたが、教会を休むと良い気持ちがしませんでした。」

そしてついに、再びそうした良い気持ちを感じられるか見てみよう、とテ・オラノアは決心しました。最初に彼女がしたのは、最新の総大会の説教を読み通すことでした。

大管長会第二顧問のディーター・F・ワークトドルフ管長の2016年10月の総大会の説教「アルマとアミュレクから学ぶ」が、テ・オラノアの心呼び覚ましました。アミュレクの信仰がどのように弱くなったか、ワークトドルフ管長が説明すると、自分の生活や気持ちとよく似ていると思いました。また、信仰が強かったときに感じた幸せ



「主に立ち返りたいと  
望むときには  
いつでも、  
そうできるのです。」

を今までにないほどはっきりと思い出しました。彼女はすぐに、現状を変えたくまりました。

「もう一度自分の証の火をともすために何か見つけたいと願っていました。それで、ウークトドルフ管長の説教を読んで、これだ！と強く感じたのです」と彼女は説明します。

### 永遠を望む

テ・オラノアが信仰を取り戻す道は、いつも簡単だったわけではありませんが、彼女が進む暗い道の先には特別な希望の光があり、前進し続けることができました。それは永遠の家族という希望です。

「家族は永遠と一緒にいられるのです」と彼女は言います。「これはわたしの人生最大の夢、最大の希望です。何かについて学びたいとき、またはある教義を理解するのが難しいと感じるときにはいつでも、永遠の家族に結びつけて考えるようにしています。例えば、イエス・キリストの贖罪しよくざいはなぜわたしにとって大切か。一つには、神殿に参入し、永遠に家族と結び固められるためにふさわしくなれるよう、わたしの生活において主の贖罪が必要です。」

### 神に立ち返る

リーハイの示現に出てくる、木の実を食べた後に離れてしまった人々が、まだその味を忘れていなかったことは覚えておく価値があるでしょう。短い間だったとしても、きっと彼らはその良さを知っていたことでしょう。そして、それを再び味わうことができるのです。それが、テ・オラノアが自分とほかの人について確固として抱いている希望です。

「残りの人生の間ずっと、禁じられた道を進む必要はありません。主に立ち返りたいと望むときにはいつでも、そうできるのです。」■



この青少年たちは、数曲の簡単な歌がどれほど喜びをもたらすか考えもつきませんでした。



# クリスマス キャロルの魔法

## ホアキンのためのキャロル

**キ**ャロリングは、アルゼンチンでは一般的なクリスマスの慣習ではありません。実際のところ、この国でのクリスマスは、一般に考えられるような伝統的な雪景色の場面とは大きく異なります。南半球に住んでいるので、わたしがクリスマスと聞いていつも思い出すのは、大盛りのフルーツサラダです。

ですから、両親が家族でキャロリングをやろうと提案したとき、きょうだいとわたしは戸惑いと楽しみが入り混じった気持ちでした。音楽の才能については自信がなかったので、訪問先の方が最後には少しでもほほえんでくれるようにクッキーを作って持って行くことにしました。

ホアキンという男性は、わたしが思い出せるかぎりずっとうちのワードの会員です。その12月、彼は病気になって聖餐会せいさんかいに出席できなくなっていました。わたしの父と兄弟たちは、日曜日の集会の後、病院に入院しているホアキンのところへ聖餐を届ける神権者の中にいました。

クリスマスの前の日曜日、クリスマスの心温まる精神を届けられるようにと願って、家族全員でホアキンを訪問するために車に飛び乗りました。到着すると、看護師が彼のベッドまで案内してくれました。まるでわたしたちが来るのを待っていたかのように、彼は聖典と賛美歌を枕元に置いていました。

彼はわたしたちの訪問をたいそう喜んでくれ、わたしたちは皆すぐに彼を大好きになりました。わたしの兄弟たちが聖餐を準備し、祝福して、配りました。帰る前に、わたしたちは「昔、ユダヤの野辺に」（『賛美歌』126番）の美しいメロディーを歌いました。「神にはみ栄え 高き神、栄えあれ 地には平和を 人に親しみ」

元々はただホアキンにクリスマスの精神を感じてほしいと思って訪問したものの、彼がわたしたちを「天使」と呼び、訪問に感謝してくれたとき、平和と親しみが心にあふれたのはわたしたちの方でした。■

フリア・G (アルゼンチン、ブエノスアイレス)

## その夜の最後の訪問先

クリスマスイブの夜のことでした。わたしは、キャロリングには行きたくありませんでした。

しかし母は、家族で我が家の古い車に乗り込み、近所の凍てつく道路を運転して、ワード内の、夫に先立たれた3人の女性のところへクリスマスキャロルを歌いに行ったら楽しいだろうと言いつい出し、父は喜んで賛成しました。

わたしは気まずい思いでした。わたしたちの歌を聞きたいと思う人がいるのでしょうか。知っている人に会ったら死ぬほど恥ずかしいでしょう。不平を言ったり、怒ったりしながら、わたしはきょうだいといっしょに後部座席に乗り込みました。

最初のアパートまでの道のりは、わずか数ブロックでした。だれも玄関に出て来ません。わたしたちは次の目的地に向かいました。またしても、だれもいませんでした。わたしの胸は期待で高鳴り始めました。

最後の目的地の狭い私道に車が止まったとき、わたしは「だれも家にいませんように」と心の中で願っていました。

もう外は真っ暗です。母がドアをノックして待つ間、玄関のポーチは真っ暗なままでした。よかった。もう少しで自宅に帰って、自分の部屋に避難できます。

すると突然、玄関先の明かりがついて、ドアが開きました。わたしはとても戸惑いました。その家の人は取り込み中だったに違いないと思いました。

「どうぞ入って、入って」と小柄なやせた女性が言いました。その家の人は、自分の古いアップライトピアノを指さしました。

「弾ける？」彼女はわたしの母に聞きました。「ピアノの周りで歌いましょう。」

彼女の温かさと思いやりでわたしの

心は和らぎました。わたしたちがいきなり来たことをそれほど気にしていないようでした。わたしたちが2、3曲歌う間に、彼女はココアを用意してくれました。

「手伝ってくれるかしら」と彼女はわたしに言いました。台所に入ると、クリスマスのために明るく飾り付けられた美しいテーブルがあり、わたしは目を見張りました。とても華やいだ雰囲気でした。部屋のところどころに、小さな、きちんと包装された包みが置いてありました。

「これはだれのために？」とわたしは尋ねました。彼女は一人暮らしのはずでした。

「近所の人のためよ」と彼女は説明しました。「毎年クリスマスには、わたしのように家族が近くにいない人を招待するの。クリスマスの朝食と、ちょっとしたお楽しみを一緒にね。」


13歳のわたしはその姉妹の発想にとっても感激し、頑固だったわたしの心は、彼女を賞賛する気持ちでいっぱいになりました。何と美しい部屋でしょう。そして、この小柄な年老いた姉妹の心の、何と美しいことでしょうか。母がここへ連れて来てくれたことは、何と素晴らしいことでしょうか。わたしはようやく幸せを感じることができました。

翌月、教会で会ったとき、この姉妹はわたしたちの訪問について再びお礼を言ってくれました。その年、彼女のことを覚えていたのはわたしたちだけだったと言いました。数か月後、彼女は突然亡くなりました。

わたしはあのクリスマスを振り返り、素晴らしい両親とその年配の姉妹のことを感謝しています。彼らは皆、クリスマスの喜びをほかの人に分かち合いたいと望んだのです。■

ブルック・K (アメリカ合衆国, ユタ州)





# クリスマスが 宣教師となる 絶好の時季である 8つの理由

クリスマスの時季には、  
福音を分かち合いやすい  
雰囲気があります。





教会機関誌

シャーロット・ラーカバル

**あ**なたは友達を愛しています。福音を愛しています。でも、福音を友達に紹介する方法を思いつきません。

そんなことを思ったことがあるのはあなただけではありません。多くの人は友達に福音を紹介したいと思っ

ているのですが、押し付けがましくなったり、ぎこちなくなったりしないかと恐れています。福音を分かち合うことには、多くの心配がつきものです。

でも、恐れる必要はありません。今までだれにも教会のことを話したことがなかったとしても、クリスマスの時季は自然で簡単な、実践しやすい伝道の機会に満ちあふれています。どうすればよいでしょうか。

まずは、祈ることです。天の御父に福音を分かち合う機会について祈り求めてみてください。だれに話せばよいか、だれを招けばよいか、分かるように祈ります。そして実際に行う勇気を祈り求めてください。

次に、行動し始めることです。それも、今始めてください。実は、クリスマスの時季、伝道活動はとてもやりやすいのです。なぜでしょうか。8つの理由があります。

### 1. 皆、楽しいパーティーが大好きです。

もしかしたら、あなたのワードや家族がクリスマスパーティーを計画しているかもしれません。一緒に楽しい時間を過ごそう、と友達を誘いましょう。きっとクリスマス会で救い主についての歌やメッセージがありますから、それがまさに友達が聞く必要のあることかもしれません。

### 2. クリスマスの時季に人を教会に招待するのは、ごく普通のことです。

クリスマスの季節、人は教会に足を運びたくなるのです。教会ではどのように救い主を礼拝しているのか、見に来ることができることを友達に知らせる絶好の時です。

### 一歩ずつ進むための助け

**わ**たしは福音にとっても興味を持って

いる隣人と話をしていました。彼女をミューチャルに招待しましたが、いつも用事ができて、来ることができませんでした。ある夜、わたしはそれについて祈って

いなかったことに気づき、すぐにひざまずいて、聖霊がともにあってわたしを導いてくださるよう祈りました。祈った後、答えを待ちましたが何も受けませんでした。混乱してもう一度祈りましたが、今度はわたしが頂いているすべての祝福を神に感謝するようにという促しを感じました。また、受けている多くの祝福と、救い主の力のおかげで受けられるすべての祝福に周りの人々が気づけるよう助けることができるよう祈りました。どんなに時間がかかっても、天の御父はさらなる忍耐と祝福をもって、永遠に向かって一歩ずつ進むときにいつもともにいてくださると強く感じました。間もなく、わたしの祈りは答えられ、友達と一緒にミューチャルに来てくれました。

エローラ・C, 14歳

(アメリカ合衆国, アリゾナ州)





3. クリスマスのお菓子は、招待状や福音のメッセージをさらにすてきなものにしてくれます。

お気に入りの聖句にクッキーを添えてみてはどうでしょうか。甘いお菓子とクリスマスに関する言葉もよいでしょう。ぜひ、やってみてください。

4. 家族の集まりが多くなります。

クリスマスの大事な恒例行事の一つは、家族で過ごすことです。家族のこと、家族のクリスマスの伝統、家族について信じていることなど、話しやすくなるはずですよ。

5. イルミネーションとココアは、この時季にぴったりです。

家庭の夕べやミューチャルの活動で、ココアを飲んだり、クリスマスのデコレーションを見に行くことができます。クリスマスの活動はだれにとっても楽しいものであり、あなたがどのような信仰生活を送っているかを友達に見てもらう素晴らしい機会となります。

### 大したことに見えなくても

少し前、教会の友達が引っ越して行き、ぼくは学校で唯一の教会員となりました。そのころ、日曜学校の教師が、どのような方法で友達に福音を分かち合うことができるかについて話しました。ぼくはどうすれば実行できるか知るために祈り、はっきりとした答えを受けました。友達の一人と話していたとき、デートに対する彼の考え方が話題になりました。16歳になるまではデートをすべきでないと思うとぼくが説明すると、驚いたことに、彼も似たような標準を持っていたのです。大したことでないように思えますが、それはまさにぼくの祈りの答えだったので、その経験を通して祈りに対する証が<sup>あかし</sup>強められました。

デビッド・S, 13歳 (アメリカ合衆国, テキサス州)

6. クリスマスのモルモンメッセージはすばらしく、簡単に分かち合うことができます。

「救い主がお生まれになりましたークリスマスビデオ」をソーシャルメディアで分かち合うことにより、クリスマスの精神を伝えることができます。あなたがフェイスブックでつながっている友達の中で、「The Reason Behind Christmas」（「クリスマスのほんとうの意味」）に出て来る不機嫌な用務員を助けるかわいい天使や、「コート」に描かれている無私の心を見て喜ぶ人はたくさんいることでしょう。友達に分かち合える、すばらしいクリスマスメッセージを、LDS.org やモルモンチャンネルで探しましょう。

7. クリスマスは救い主を祝うものです。

多くのキリスト教徒が、クリスマスの時季に救い主に心向けます。毎日行える奉仕のアイデアに加えて、Mormon.org は救い主の教えや「光とな」〔る〕ための方法も紹介します。あなたの友達も、そういった方法でクリスマスにキリストを祝いたいと思っているかもしれません。

8. クリスマスの時季には人々に奉仕し、与える機会が多くあります。

奉仕は、宣教師となるためのすばらしい方法です。クリスマスの時季には、奉仕し、与える機会が多くあります。老人ホームを訪問したり、隣人のためにクリスマスキャロルを歌ったり、地域の施設に品物を寄付したりすることができます。Mormon.org には、12月の最初の25日間に実行できる様々な奉仕のアイデアが掲載されています。

### さあ、行動しましょう


福音があるおかげで、あなたはイエス・キリストと主のもたらして下さるあらゆる希望を知っています。それはすばらしい賜物で、ほかの人に分かち合うことができます。福音を分かち合う機会を心から求めて天の御父に祈るなら、御父はだれに話すべきか靈感を与えてくださいます。クリスマスは、分かち合いの時、与える時、イエス・キリストを思い出す時です。■



### お祝いの季節

「クリスマスは喜ばしい季節、お祝いの季節です。全能の神が、世を贖うため、わたしたちを贖うために、その独り子イエス・キリストを送ってくださったことを認める、すばらしい時です。」

大管長会第二顧問  
ディーター・F・ウークトドルフ管長  
「クリスマスの中にキリストが見えるでしょうか」  
(大管長会クリスマスデポーションナル,  
2009年12月6日) [broadcasts.lds.org](http://broadcasts.lds.org)



わたしたち一人一人は、  
**イエスのために**  
部屋があるかどうか  
決めなければならない  
**宿の主人**  
のようなものです!

ニール・A・マックスウェル長老 (1926 - 2004 年)  
「心に決めなさい」  
1992 年 10 月総大会



トーマス・S・  
モンソン大管長

## クリスマスの ほんとうの精神を 感じるには

**ク**リスマスは1年のうちで最も栄光に満ちた季節です。同時に、わたしたちの大部分にとって、実に忙しい時期でもあります。わたしは、わたしたちが季節の重荷に圧倒されるあまり、間違っただけなのに力を入れたり、ベツレヘムの聖者の降誕を祝うという素朴な喜びを見落としたりすることのないよう、願い、祈っています。

クリスマスのほんとうの喜びを見いだそうとしたら、もっと多くのことをしようと急いだり、あせったりしてはなりません。クリスマスのほんとうの喜びは、**救い主をこの季節の中心とすること**で見いだせるのです。

救い主が教えられた愛と無私の心に従い、クリスマスをお祝いするのではなく、**与えるこ**

**とで**クリスマスの精神が花開きます。わたしたちは互いにもっと**思いやりを持つ**ようになります。良い境遇にない人々を助けるために、愛の手を差し伸べます。わたしたちの**心は優しく**なります。敵を**救**し、友を思い起こし、神に従います。クリスマスの精神は、心の窓から見える景色に光をとめます。この世の慌ただしい生活の中にあっても、物ではなく、人にもっと関心を寄せるようになります。クリスマスの精神のほんとうの意味を理解しようとしたら、ひたすら**キリストの御霊**を求めます。

わたしたちも救い主が自らをささげられたように、自分をささげることができますように。自分をささげることが、神聖な贈り物です。主からすべてを与えられていることを記念して、わ

たしたちは与えます。最終的には壊れたり、忘れられたりするわたしたちの贈り物だけでなく、永遠の価値を持つ贈り物をすることができますように。わたしたちが皆、理解と思いやり、奉仕と友情、そして兄弟愛と優しさという贈り物をすることができたとしたら、この世界がどれほど良いものとなるのでしょうか。

クリスマスの季節は、わたしたちをすべての栄光で包み込みます。博士たちのように、輝く特別な星を探し求め、その星によってわたしたちが救い主の生誕を祝う場所へと導かれますように。わたしたちが皆、救い主への贈り物として思いやりと愛にあふれる心を持ち、あのベツレヘムへと続く道を心の中で旅することができますように。■

2013年大管長会クリスマスディナーショナルから



大切なことについて  
祈っていますが、  
答えを受けたかどうか  
分かりません。  
どうしたら答えを受けたことが  
分かるでしょうか。

**祈**りの答えを受けることは一つのプロセスであると説明されています。まず、あなたの質問について心の中で深く考えます。次に、自分の答えが正しいか神に尋ねます。その答えが正しければ、主は「あなたの心に平安を告げ〔て〕」くださいます（教義と聖約6：23）。

でも、平安な気持ちを強く感じなかったらどうでしょうか。あるいは、答えを受けたように感じるけれども、それが自分の考えか、または聖霊から来たものなのか確信が持てなかったらどうでしょうか。

十二使徒定員会のデビッド・A・ベドナー長老は、次のように教えています。「ほとんどの場合、啓示は時間をかけて少しずつもたらされ、わたしたちの望み、ふさわしさ、準備の度合いに応じて与えられます。」<sup>1</sup> 答えはいつも突然来るとは限りません。たいいていの場合、「教えに教え、訓戒に訓戒」として来ます（2ニーファイ28：30）。そして答えを完全に受けたと感じる前に、ある方向に一歩足を踏み出さなければならないことがよくあります。答えをまったく受けないことも時々あります。それは、適切なときに神がこたえてくださるという信仰をもって、とにかく行動する必要のある時なのです。

答えがあなたの考えなのか、それとも聖霊からなのかと悩むとき、最も良い答えは「善を行うように誘い、促〔し〕、……神を愛し、神に仕えるように誘〔う〕」ものであることを思い起こしてください（モロナイ7：13）。

注

1. デビッド・A・ベドナー「啓示の霊」2011年4月総大会



**決定を下し御霊を待つ**

ある夏のこと、ある大切な決定について主が答えてくださってはいないように感じました。

主の御心みこころが分かるように毎日心を込めて祈り、行いたいと思っていることを主にお伝えしました。はっきりとした答えが得られないまま、わたしは決定を下しました。そうするとすぐに、その決定がわたしの成長を促し、天の御父にもっと似た者となるように助けてくれる、と証あかしをする御霊を感じました。答えを受けるために行動しなければならない時があります。天の御父はわたしたちの選択の自由と義にかなった望みを尊重してくださっています。ふさわしく生活しているなら、主の御霊はわたしたちの望みを通して導いてくださいます。それは、わたしたちの望みが主の御心と一致しているからなのです。

アマンダ・H, 16歳 (アメリカ合衆国, ユタ州)

**助けを求めて祈る**

これまで多くのことについて祈って答えを受けてきましたが、最も印象に残っているのは勉強に関することです。試験の前に、落ち着いて学んだ事柄を思い出せるように祈ったものです。主の助けがなければ決して思い出せなかった事柄を思い出せたことが何回もあります。主はほんとうにわたしの生活を祝福してくださいました。祈りの力と祈りを通して与えられる主の導きを大切にしています。

エミリー・B, 18歳  
(オーストラリア, クイーンズランド州)



### 忍耐し答えを待つ

少し前、自分自身にチャレンジし、奉仕の機会が得られるように祈りました。ほかの人を助ける方法を幾つか思いつきましたが、促しと思えるような答えは受けませんでした。がっかりしていたとき、母がアルマ書第5章40節の「善いものは何であろうと神から出〔る〕」を教えてくださいました。そのとき、奉仕についてひそかに思いついたことが、実は聖霊の促しだったことが分かりました。祈りがいつもこたえられることを知っています。わたしたちは、ただ忍耐し、答えを待ち、神を信頼しなければならぬのです。

ライビー・B, 16歳  
(アメリカ合衆国, オレゴン州)



### 御霊を信頼する

聖霊を信頼することを学び、天の御父がこたえてくださる方法を認識する能力を高めるとき、御霊がどれほど近くにおられるかが分かります。御霊は非常に穏やかな声で促すので、この世のことに心を奪われていると、高い所からやって来るかすかなささやきや印象に気づくことができません。しかし、正しく生活しているなら、いつも御霊がわたしたちの嘆願にどうこたえてくださっているかが分かると約束されているのです。

リベイロ姉妹, 24歳,  
(ブラジル・ホルトアレグレ南伝道部)



### やってみてください!

完全な答えを得る前に、主はわたしたちが信仰をもって行動するように求められることがあります。知恵の言葉がほんとうに神の戒めなのか知りたと思いますか。だったら、それを守ってください。モルモン書が真実かどうか知りたと思いますか。だったら、読んでみてください。ヨハネによる福音書第7章17節の約束を信じてください。「神のみこころを行おうと思う者であれば、だれでも、わたしの語っているこの教が神からのものか、それとも、わたし自身から出たものか、わかるであろう。」

プレストン・O, 19歳 (アメリカ合衆国, ユタ州)



### キリストの力によって

ラズバンド長老とオスカーソン姉妹の「Face to Face」の放送を見ていたとき、ある青少年が祈りの答えを受けることについて、わたしが思っていたのと同じ質問をしていました。オスカーソン姉妹は、モ



### 道は一度に 少しずつ 開かれる

「わたしたちが何らかの決定を下す際に御霊の導きを求めると、主は優しく

わたしたちを促してくださいます。そこでわたしたちは考え、信仰を行使し、努力し、時には悩み、そして行動する必要があります。すべてを解決するような答えが一ぺんに与えられることはめったにありません。むしろ、一度に少しずつ道が開かれ、結果がどうなるかは初めから分からないものなのです。」

十二使徒定員会  
リチャード・G・スコット長老 (1928 - 2015年)  
「祈りの答えを知る」  
『聖徒の道』1990年1月号, 33

ロナイ書第7章16節を引用しました。「キリストの力と賜物<sup>たまもの</sup>によって……あなたがたは、それが神から出ていることを完全に理解してわきまえることができる。」その聖句は、わたしたちが自分に対する神の御心を完全に理解できることを示しています。御霊を感じれば、答えを知ることができるでしょう。  
サラ・S, 17歳 (ブラジル, サンタカタリナ州)

## 次回の質問

「わたしは、救い主に愛されるにふさわしくないと感じる場合があります。どうしたらこのような気持ちを克服し、自分の価値を見いだすことができるでしょうか。」

あなたの意見と、希望する場合は高解像度の写真を、2018年1月15日必着で [liahona.lds.org](http://liahona.lds.org) からお送りください(「投稿する」をクリックしてください)。

掲載される際、誌面の都合上、あるいは<sup>めいりょう</sup>明瞭な表現にするために編集されることがあります。

# わたしたちのスペース



## 新しい友達を作る

**家**族で引っ越しをすると両親から聞いたとき、新しい友達ができることがとても楽しみでした。新しい町に到着した後、教会に行きました。わたしはそこで御霊をとても強く感じ、すべてうまくいくと確信しました。

間もなくして、新しい学校に通い始め、わたしはその学校で数少ないモルモンの一人名となりました。学校の中に入って行くと、自分が浮いていると感じました。自分がほかの生徒と違うことが分かりました。

最初の1週間ぐらい、友達を作ろうと頑張りましたが、とても居心地悪い感じがしました。授業のときに毎回違う生徒の隣に座ったり、食堂で毎日違うテーブルで食べたりしてみましたが、

うまくいっているようには思えませんでした。

わたしは同級生に対してもっと良い模範になろうと決心しました。「成長するわたし」や聖典学習に熱心に取り組みました。一生懸命に努力することで、自分が神の娘であり、神から愛されていることをさらに深く理解するようになりました。

このような努力をしばらく続けていると、ある変化に気づきました。学校で友達ができるようになり、しかも吸い寄せられるように人が集まって来るのです。皆は、わたしがとても目立っていると言います。それはわたしが光を輝かせようとしているからだということに気づきました。同級生とは違う

振る舞いをし、慎重な服装で、正しい言葉遣いをし、人に親切にしました。

わたしたちは皆、神の子です。浮いているように感じても、光を輝かせようと頑張っただけによかったと思います。主の側に立っていれば、決して独りではないことを知っています。■

レベッカ・C  
(カナダ、プリンスエドワードアイランド州)



## モルモン書を受け取って もらえますか？

**あ**る日のミューチャルで、だれか同僚を決め、同僚と一緒に会員でない人に証<sup>あかし</sup>を述べ、その人にモルモン書を1冊渡すことにより宣教師になる、というチャレンジを受けました。

ミューチャルの後、母に相談しました。母は、信仰をもって天の御父に祈って尋ねるならきっとこたえてくださると約束してくれました。

モルモン書を受け取ってくれる人を見つけるまでに、2週間かかりました。初めのうちは何度も断られ、傷つくことに疲れたわたしは、諦めかけていました。

ある夜わたしは、家族ぐるみで親しくしているある女性の夢を見ました。夢の中で、同僚と一緒に訪問すべき人は彼女だと分かりました。目覚めると、わたしは主の助けがあったことに感謝しました。

次のミューチャルの日、同僚とわたしはモルモン書の内表紙に証を書き、その女性にあげる準備をしました。わたしたちは彼女の家に行き、ドアをノックして待ちました。断られるのではないかと不安でしたが、少しでも信仰を持つようにと自分に言い聞かせました。しばらくして彼女は笑顔で玄関に出て来て、モルモン書を受け取ってくれました。

この経験を通して、少しなりとも信仰を持ち、天の御父がそこにおられると知っていれば、不可能なことも可能であると確信できることを知りました。■

ラブンツェル・L (アメリカ領サモア)

## ピアノレッスンを さぼったら

**あ**る1週間、ぼくはピアノを練習しないことにしました。ピアノの先生も母も認めてくれないことでしたが、丸1週間、ぼくはまったく練習しませんでした。のんびりしたり、ほかのことをしたりできたので最高だと思いました。

ところが、木曜日の夜、翌朝にピアノのレッスンがあることを母に聞かされ、楽しい気持ちは消えました。ぼくは、うまい解決策を見つけた、と思いました。1時間早く起きて練習し始めたのです。しかし、始めるのが遅すぎたため、練習が足りないことが分かりました。ぼくは選択の自由を使って楽しい思いをしましたが、選択の結果については考えませんでした。

翌朝、ピアノの先生に会ったとき、ぼろが出始めました。練習していないことを白状しなければならず、先生は練習をさぼった分を、通常の練習時間に追加して練習するように告げたのです。

選択の自由、責任、報告責任について学んだ教訓に感謝しています。すべての選択には結果があり、最初に時間を取って結果について考えるようにすれば、より良い選択ができることを学んだのです。■

ブレーク・H (アメリカ合衆国、ユタ州)

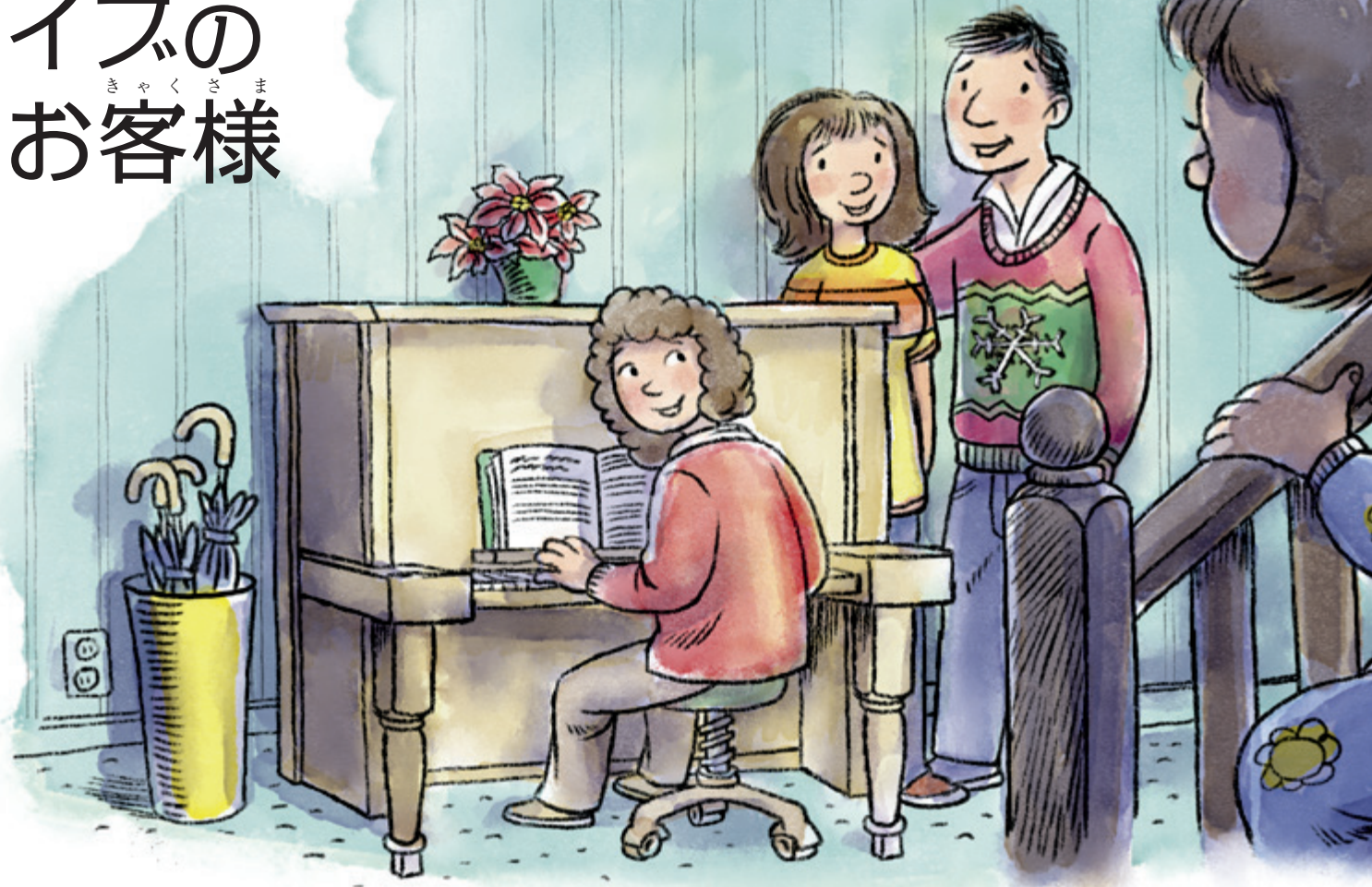


### あなたの番です

『リアホナ』に、皆さんの経験談や意見をお寄せください。好きな聖句はありますか。祈りの答えを受けましたか。勇気を出して、福音に従って生活していますか。liahona.lds.org にアクセスして原稿をお送りください(「投稿する」をクリックしてください)。

# クリスマス イブの お客様

その夜はいつも一年でいちばんすてきな夜でした。  
でも、今年は台なしになってしまいそうです。



ホリー・K・ワージントン

ほんとうにあったお話をもとに書かれました

「おさな子キリストのキャロルを歌い、隣人にあなたの愛を知らせましょう」(Children's Songbook, 51)

クララは、クリスマスイブに毎年家族で行っている伝統行事が大好きでした。まず、夕飯には焼いた魚とデザートクリスマスクッキーを食べます。それからクリスマスマーケットに行き、家にもどってから、聖書に書かれているクリスマスの物語と一緒に読むのです。そしてねる前にクリスマスツリーに初めて明かりをともして、一人一つプレゼントを開けます。クララにとって、一年でいちばん好きな夜です。もう楽しみで待ちきれないほどでした。

でも、お母さんの言葉を聞いて、すべてが変わってしまいました。

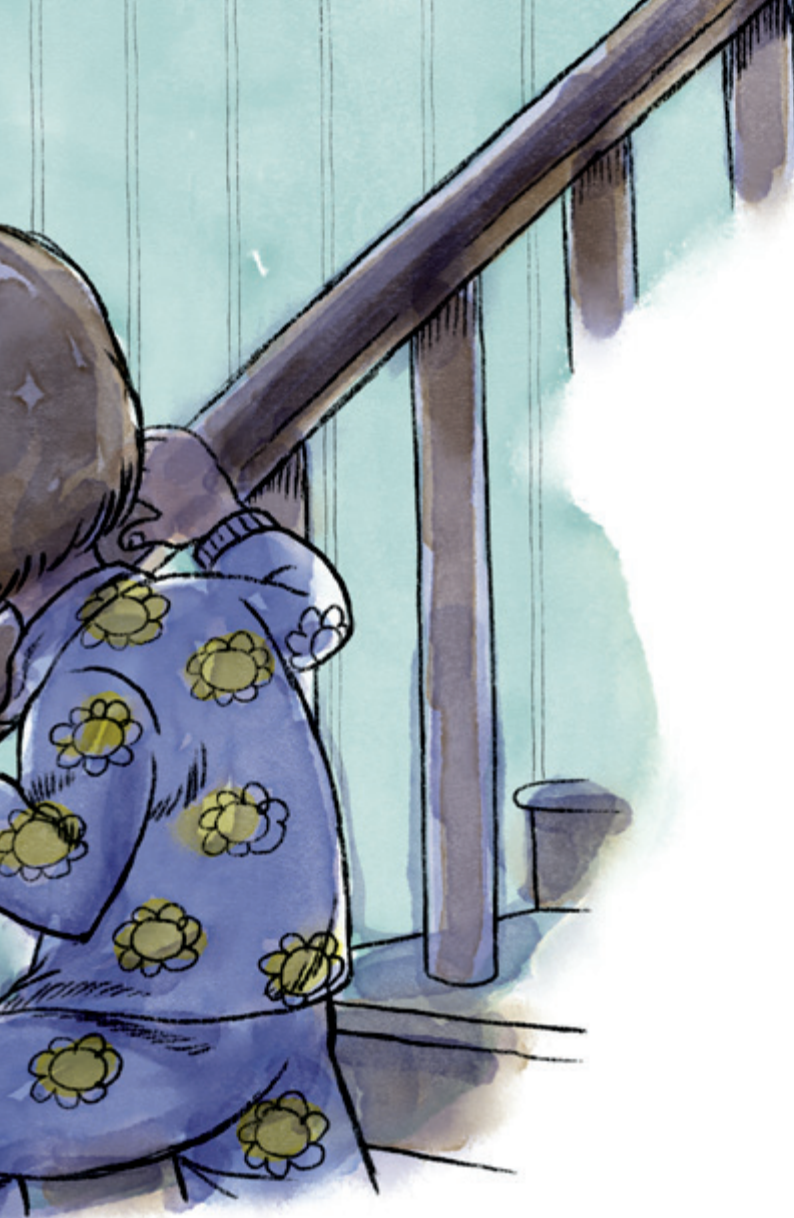
「今年は、クリスマスイブに特別なお客様が来てくださるのよ。レイナーさんを覚えている？」

クララは低い声でつぶやきました。「お父さんが先週教会にさそった近所の人？」

「そのとおりよ。お父さんが今むかえに行っているわ。」

クララは椅子にたおれこむようにすわりました。知らない人が一緒にいるのに、どうしてくつろいで楽しむことなどできるでしょう。クリスマスイブが台なしです。でも、お父さんがさそってもレイナーさんは教会に来なかったわ。今日も来ないかもしれないし。

でも、お父さんがドアから入ってきたとき、「特別なお客様」も一緒にでした。レイナーさんはつかれた様子で、ちょっと悲しそうでした。クララはあいさつはしましたが、ほかには何も話したくありませんでした。夕飯の間、お父さんとお母さんはレイナーさんとおしゃべりしていましたが、クララは食べ物に集中していました。



きました。

レイナーさんはちょっとにっこりしました。「ピアノをひくことね。そして数学も好きよ。」

クララは目を丸くしました。「ほんとうに？ わたしも数学が大好きなんです！」

それからの時間、クララはずっとレイナーさんと話しました。話す中で、レイナーさんが大学で数学の学位を取ったこと、ご主人と会ったときは、数学の教授になるために勉強していたことを知りました。ご主人は悪い選択をして、今はろうやに入っていました。

夕飯の後、みんなでクリスマスマーケットを歩く間、クララはレイナーさんのとなりになりました。クリスマスの物語を読んだとき、クララは自分の聖典をレイナーさんに見せてあげました。

やがて、プレゼントを開ける時間になりました。クララは、温かいむらさき色のパジャマをもらいました。着るのが待ちきれませんでした。でも、レイナーさんにはプレゼントがないのがちょっと申しわけないと思いました。

するとそのとき、お母さんがレイナーさんにプレゼントを手渡しました。レイナーさんははずかしそうにほほえんで、プレゼントを開けました。そこには、こん色のくつ下が入っていました。レイナーさんはなみだをためて、お母さんを見上げました。「ありがとう。わたしの分は用意しなくてよかったのに。」

クララは自分の寝室に行くと、新しいパジャマを着ました。レイナーさんのことばかり考えていました。レイナーさんはクリスマスにくつ下をもらって、とても感謝しているようでした。

クララがふわふわしたくつ下をはいていると、美しい音楽が聞こえてきました。急いで下に行ってみると、お父さんとお母さんがレイナーさんのピアノに合わせてクリスマスキャロルを歌っていました。クララも一緒に歌い始めました。歌っていると、心の中が温かくなりました。「クリスマスにお客さんをむかえるのも、そう悪くはないわ」と思いました。

日曜日、レイナーさんが教会に来て、聖餐会の間クララの家族のとなりにすわりました。とても幸せそうでした。クララは自分が持っていた賛美歌をレイナーさんと一緒に見ながら、にっこりしました。クリスマスイブの新しい伝統行事を一つ増やしてみるいい時期だったのかも知れません。■

このお話を書いた人はアメリカ合衆国アイダホ州に住んでいます。



わたしは、一人ぐらしをしている近所の人を訪問して、絵をかいて、愛をしめします。

ジル・K, 10才 (アメリカ合衆国, カリフォルニア州)

「ダンスのレッスンは受けたことある？」というやさしい声がありました。クララが見ると、レイナーさんがクララの答えを待っていました。クララはうなずくと、手もとのお皿を見つめました。

「わたしもよ」と、レイナーさんはまた静かな声で言い、「どんなダンスが好きなの？」と聞いてきました。

クララはかたをすくめて、お皿の上の野菜をつつきました。

「わたしはバレエが好きよ」とレイナーさんが言いました。「大学でダンスチームに入っていたの。ある年は、ヨーロッパ中を回ったわ。すばらしかった。」

クララは顔を上げました。ほんとうにすばらしい話に思えたからです。

「ほかにはどんなことが好きなんですか？」とクララは聞



七十人

ポール・B・パイパー長老

# 勇気を出して分かち合う



わたしの家族は、世界中のいろいろな場所に住んだことがあります。たくさんの人々に会い、福音を分かち合う機会も数多くありました。子供たちはあかしを分かち合い、人々に祝福をあたえてきました。

子供たちがまだおさないころ、わたしたちはカザフスタンという国に住んでいました。当時のカザフスタンには宣教師はいませんでした。友人や隣人が福音について知りたいと思ったとき、わたしたちが宣教師になって伝えなければなりません。

むすめのマーネは友達のアリオナに福音を伝えました。アリオナはお母さんからきよかをもらってバプテスマを受け、後でお母さんとアリオナの妹がバプテスマを受けました。最近アリオナはニューヨーク・マンハッタン神殿でぎにかなった青年と結婚し、マーネも参列しました。マーネは友達がイエス・キリストについて学べるように助けられたことを、とてもうれしく思いました。

アメリカ合衆国のバージニア州に住んでいたとき、息子の子クリスは初等協会に通ってました。クリスの友達とその家族が宣教師からレッスンを聞き始めました。クリスはその家族を教えるのを助けてました。毎回レッスン前のじゅんびをして、質問に答えられるようにしました。その家族はバプテスマを受けることを決心しました。その後、クリスは自分が伝道に行けるかどうかをうたがったことは一度もありません。自分にはきっとできるとわかってました。

別のとき、家の修理に来てくれた男性がいたのですが、つまは作業が終わったときに、「おくり物をしたいのですが」と言って、お礼にモルモン書をプレゼントしました。

男性は気分を悪くしたようでした。かれはわたしたちが信じている事柄を理解せず、わたしたちがイエス・キリストを信じていないと思ったからです。

クリスは勇気を出して、その男性にあかししました。クリスは自分が末日聖徒イエス・キリスト教会の会員で、キリストを信じていると伝えました。

天のお父様の子供たちの多くが、福音について知りません。わたしたちがイエス・キリストを信じていることに気づいていない人もいます。そのような人々に対して、親切に伝えてあげる人が必要です。わたしたちは勇気を出して、あかしを伝えることができます。人々がイエス・キリストについて学べるように助けることができます。■

# こんにち きょう かい 今日の教会

きょう かい れき し とう じょう じん ぶつ え つか  
教会歴史の登場人物の絵を使って、  
きょう かい れき し もの が た り わ あ  
教会歴史の物語を分かち合いましょう。



だい かん ちょう  
モンソン大管長



せい と ほん ち う つ く まち ねん しん でん た しょ き じ だい きょう  
聖徒たちはソルトレーク盆地に美しい街をきずき、40年かけてソルトレーク神殿を建てました。初期の時代から、教  
かい おお せい ち ょ う い ま せ かい じゅう かん せい しん でん し ょ  
会は大きく成長しました。今、世界中には156の完成した神殿があり、モルモン書は110の言語にはんやくされてい  
ます。トーマス・S・モンソン大管長は現代の神の預言者です。あなたは教会が成長し続けられるように、どのように  
たす け ら れ ます か？

みなさんが、今年の教会歴史の登場人物の特集を楽しんでくれたとしたら、とてもうれしいです。  
liahona.lds.orgでは、これまででしょうかいた教会歴史の登場人物をみることができます。

# あ か 赤い チケット

あーあ！ ダニエルはまたチケットを  
かえ  
返さなければならないようです。



ダーシー・ジェンセン・モリス

ほんとうにあったお話をもとに書かれました

「神の言葉よく聞いて、みんなの光になりましょう」(「よく聞いて」『子供の歌集』71)

マテオは黒板の算数の問題を見ると、急いでノートに書き写しました。算数は大好きな教科だったので、よく注意して聞きたかったのです。でも、友達のだニエルが話していたので、サントス先生が言っていることがほとんど聞こえませんでした。

「しーっ！ ダニエル、聞こえないよ！」マテオはささやきました。それでも、ダニエルは話し続けていました。ついに

サントス先生に聞こえてしまいました。

「ダニエル、またじゃまをしているのね。」サントス先生が言いました。「前に警告したはずよ。チケットを出してちょうだい。」

ダニエルはゆっくりとつくえの中に手を入れると、サントス先生に赤いチケットを手渡しました。かたを落とし、ゆかを見していました。サントス先生は、良い行動をした生徒や、指示にしたがった生徒にチケットをあげていました。毎日生徒はそのチケットに自分の名前を書いて、びんに入れるのです。悪い行動をしたときは、チケットを先生に返さなければならない。毎週金曜日に、サントス先生はびんから

チケットを1まい取り出します。そのチケットに名前が書かれてあった人は、クラスの宝箱から賞品を一つ選ぶことができるのです。ダニエルはおしゃべりをしたためにチケットをたくさん返さなければならなかったので、びんからダニエルの名前が書かれたチケットが取り出されたことはあまりありませんでした。マテオは、ダニエルがまた先生にチケットを返さなければならぬのを気の毒に思いました。

休み時間になって、マテオはサッカーをするために外に飛び出しました。するとダニエルがブランコのそばに一人で見えているのが見えました。ダニエルが泣いているのが分かりました。マテオはダニエルを元気づけたいと思いました。

「サッカーやりたい？」マテオは聞いてみました。ダニエルは何もいいません。マテオはもっと話しかけようとしたのですが、ダニエルは向こうを向いてしまいました。「サッカー場にいるから、気が変わったらおいでよ。」マテオはそう言うと、ほかの友達と一緒にサッカーをしに行きましたが、それからずっとダニエルのことを考えていました。マテオはもうすぐ8才になり、バプテスマを受けることになっていました。イエスのようになって、良い友達になりたいと思っていました。ダニエルが問題を起こさないように何かできることがあるでしょうか。

次の日、授業では小さなグループごとに物語を読んでいます。でも、ダニエルは本を読まずに、本を高く投げて遊んでいました。

マテオはそれをやめさせようとした。「ダニエル、本で遊ぶんじゃなくて、読まないといけないんだよ。」

それでもダニエルはまた本を投げています。サントス先生

が見ると、本はもう少しで天井にとどきそうでした。先生はダニエルのところに行くと、チケットを返してもらうために手を差し出しました。ダニエルはつくえの中に手を入れました。さがしているダニエルの顔が、パニックでゆがみました。

「あーあ。きっとチケットが1まいもなくなっちゃったんだ！」マテオは考えました。チケットが1まいもなくなったら、今度は休み時間に教室にのこらなければならなくなります。マテオは、頭をフル回転させて考え始めました。自分に何ができるだろう。そして、良い考えが思いつきました。

「ダニエル、もし1まいもチケットがないなら……」とサントス先生が話し始めました。

マテオは深く息をすいこむと、「ダニエルの代わりにほかのチケットをわたしてもいいですか？」と聞きました。

クラスは静まり返りました。今まで先生にそんなことを聞いた人はいなかったからです。マテオには、先生が何と言うか分かりませんでした。

サントス先生はおどろいた様子でしたが、それからにっこりして言いました。「あなたはとても良い友達ね。いいわ。ダニエルのためにあなたのチケットを出してもいいわよ。」マテオはサントス先生にチケットを1まい渡しました。

「ありがとう、マテオ」とダニエルが言いました。「いいんだよ！」とマテオは答えました。「一緒に読まない？」

ダニエルはうなずくと、本を拾いました。ダニエルが本を読み始めるのを見て、マテオは心の中に温かくて幸せな気持ちになりました。その良いアイデアはせいれいが教えてくださったのです！マテオは、イエスが自分にダニエルを助けてほしいと思っておられることを知っていました。イエスはダニエルを愛しておられるからです。そしてマテオもイエスの愛を感じました！

このお話を書いた人は、アメリカ合衆国ユタ州に住んでいます。



### イエスはわたしたちのために 代価をしはらわれた

マテオはダニエルのことを大切に思っていたので、ダニエルの代わりにチケットを差し出しました。わたしたちはだれかのつみの代価をしはらうことはできませんが、イエスはおできになります。イエスはわたしたちを愛しておられるので、わたしたちのすべてのつみのために代価をしはらわれました。わたしたちが何か間違ったことを行うとき、くい改めて、ゆるしを得ることができます。イエスはわたしたちがもっと良くなるように助けることができるのです。



十二使徒定員会  
デール・G・  
レンランド長老

# く<sup>あらた</sup>い改<sup>あらた</sup>めによ<sup>あらた</sup>って、 ど<sup>しあわ</sup>のように幸<sup>しあわ</sup>せにな<sup>しあわ</sup>れますか

く<sup>あらた</sup>い改<sup>あらた</sup>めとは、  
つ<sup>み</sup>みからはな<sup>か</sup>れて神<sup>かみ</sup>に  
心<sup>こころ</sup>を向<sup>む</sup>けること<sup>こと</sup>です。

イエスは、わたしたちの  
つ<sup>み</sup>みの代<sup>しろ</sup>価<sup>が</sup>をは<sup>ら</sup>われたので、  
わたしたちをゆる<sup>ゆる</sup>すこと<sup>こと</sup>が<sup>お</sup>でき<sup>に</sup>なり<sup>ま</sup>す。  
イエスはわたしたちを愛<sup>あい</sup>してお<sup>お</sup>られるので、  
わたしたちをゆる<sup>ゆる</sup>したいと  
願<sup>ねが</sup>って<sup>お</sup>られ<sup>ま</sup>す。

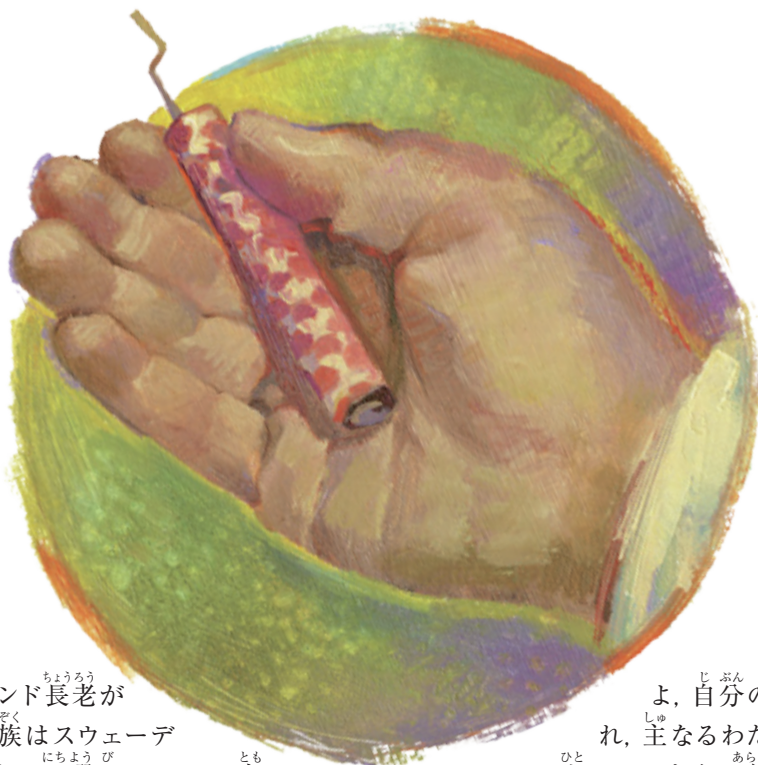
イエスは、わたしたちが  
く<sup>あらた</sup>い改<sup>あらた</sup>めを選<sup>えら</sup>ぶとき、  
喜<sup>よろこ</sup>んで<sup>く</sup>だ<sup>さ</sup>い<sup>ま</sup>す。

イエスがわたしたちを  
ゆる<sup>ゆる</sup>して<sup>く</sup>だ<sup>さ</sup>ると<sup>き</sup>、  
わたしたちも喜<sup>よろこ</sup>びを  
感<sup>かん</sup>じ<sup>る</sup>こと<sup>こと</sup>が<sup>でき</sup>ま<sup>す</sup>。

く<sup>あらた</sup>い改<sup>あらた</sup>め — よろこ<sup>み</sup>に満<sup>み</sup>ちた選<sup>せん</sup>択<sup>たく</sup>』  
『リアホナ』  
2016年11月号、121 - 124より



# 花 火



**デ**ール・G・レンランド長老が12才のとき、家族はスウェーデンに住んでいました。ある日曜日、デールの友達のステファンが大きな花火とマッチを教会に持って来ました。デールはわくわくしました。デールは花火を取り出して、導火線に火をつけました。導火線の火を消すつもりでしたが、指をやけどして、花火を落としてしまいました。デールとステファンはおびえながら、導火線がもえ続けるのを見つめていました。

花火が爆発し、ひどいにおいが礼拝堂に立ちこめました。デールとステファンは急いで花火のかけらを拾い、まどを開けてにおいがこもらないようにしました。だれにも気づかれたいと願いながら。

でもやっぱり、聖餐会に来た人々は、気づきました。においが強すぎて、集会に集中できないほどでした。デールはとてもはずかしく思いました。自分がしたことが、天のお父様をがっかりさせてしまったことは分かっていました。

教会の後、支部会長のリンダバーグ会長がデールに支部会長の部屋に来るように言いました。問題があると分かっていたからです。デールはリンダバーグ支部会長に花火のことをどれほど後悔しているか話しました。

リンダバーグ会長はやさしく受け止めてくれました。聖典を開いて、下線を引いた部分をデールに読んでくれるようにたのみました。デールは次のせいをよみました。「見

よ、自分のつみをくい改めた者はゆるされ、主なるわたしはもうそれを思い起こさない。人がつみをくい改めたかどうかは、これによって分かる。すなわち、見よ、かれはそれを告白し、そしてそれをすてる。」(教義と聖約 58:42-43)

デールが読み終わると、リンダバーグ会長の笑顔が見えました。デールは、自分がゆるされたと感じ、会長の部屋を出るとき、うれしくなりました。

レンランド長老は、間違いをおかしても、ゆるされることを学びました。くい改めて天のお父様のいましめを守るとき、喜びを感じました。■



12月12日——  
「悲しんでいる人たちは、  
さいわいである、  
かれらは  
なぐさめられるであろう。」  
(マタイ5:4)

12月11日——  
「わたしが」旅人で  
あつたときに  
宿をかし……てくれた  
からである。」  
(マタイ25:35)

12月16日——  
「わたしが」はただか  
あつたときに  
着せ……てくれた  
からである。」  
(マタイ25:36)

12月15日——  
「あわれみ深い人たちは、  
さいわいである……。」  
(マタイ5:7)

12月13日——  
「何事でも人々から  
してほしいと望むことは、  
人々にも  
そのとおりにせよ。」  
(マタイ7:12)

12月19日——  
「喜び、よろこべ……。」  
(マタイ5:12)

12月14日——  
「人をさばくな。  
自分がさばかれない  
ためである。」  
(マタイ7:1)

12月17日——  
「あなたがたはしばしば  
ともに集いなさい。」  
(3 ニューアイ 18:22)

12月20日——  
「御国を求めなさい。」  
(ルカ12:31)

12月18日——  
「つねに目を覚ましていて  
いのらなくてはならない。」  
(3 ニューアイ 18:15)

12月21日——  
「人々のあやまちを  
ゆる〔しなさい〕。」  
(マタイ6:14)

12月25日——  
「そのように、あなたがたの  
光を人々の前にかがやかし、  
そして、人々があなかがたの  
よいおこないを見て、  
天にいますあなたがたの父を  
あがめるようにしなさい。」  
(マタイ5:16)

12月23日——  
「〔わたしが〕病気の  
ときに見舞〔つ〕てくれた  
からである。」  
(マタイ25:36)

12月22日——  
「わたしが行くのを見た  
そのとおりのことを、  
あなたがたも行いなさい。」  
(3 ニーファイ27:21)

12月24日——  
「〔わたしの家は、  
いのりの家と  
となえらるべきである〕  
と書いてある。」  
(マタイ21:13)

毎日、イエスが教えられたことを読み、  
イエスの教えにどのように  
したがえるかについて  
考えましょう。そして、  
星に色をぬってください。

来年は、世界中の子供たちから星を集める予定です。わたしたちに  
星を送って、あなたがどのようにもはんをかがやかせたかを教えて  
ください。もしあれば、写真を入れるのもわすれないでください。  
liahona.lds.org から送ってください。

イメージ/GETTY IMAGES

# おし イエスの教え

12月に、Mormon.org で、イエス・キリストの教えについてもっと知ることができます。  
この活動の最初の10日間は、liahona.lds.org あるいは福音ライブラリーのデジナルはんでも見られます。

# イエスさまに心を開いて

こころ ひら

快活に ♩ = 76-84

詞：ラリー・ヒラー  
曲：マイケル・F・ムーディー

1. イ エ ス さ ま お う ま れ に な っ た と  
(2. い そ) が し ろ い お ま い に ち イ エ ス さ ま  
(3. こ) こ ろ の と び ら を し ゅ に ひ ら ま い

*mp*

き 2 や ど や は こ み あ い み  
に 1 や こ こ い ろ む け る あ こ と し わ  
て お も い や り し め ー し み

つ け ら れ た の は う ま た ご  
す ね て し た の の わ イ エ ス し  
ん な に わ か ち あ お う ー さ ま

1, 2. F 3. Dm  
や だ け 2. い そ  
た の あ も 3. こ  
の あ

わ か ち あ お う  
1 3 5 2 1  
5 3 5 2 1

© 2017 Larry Hiller and Michael F. Moody.

教会あるいは家庭における一時的また非営利目的の使用に限り複製を許可する。  
複製の際にはこの表示を含めること。

# わたしたちのページ



わたしたちは、わたしたちの人生や家族にとって神殿がどれほど大切かについて話しました。家族と神殿の模型を作りました。

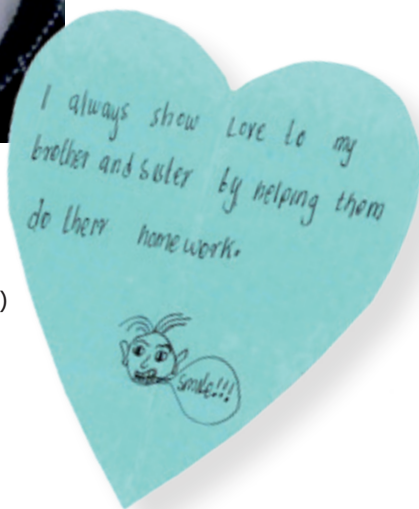
ブラジル、サンパウロにあるワードの初等協会の子供たち



わたしたちはお休みに海岸に行って、すなの上に CTR のたてを作りました。  
ソフィア、マティアスとトーマス・O (アルゼンチン)



わたしは、弟や妹が宿題をするのを助けてあげて、いつも二人に愛をしめします。ここにこそしてください！  
ベンジャミン・S, 11 才 (ケニア)



ぜんこのうしや  
**全能者**  
みんな「全能者とはだれだろう？」と  
といかけますが、  
多くのおおひとはそのおこたえを知りません。  
子供たちのめには  
ちゃんとみえていふことを知らないので。  
そよ風が  
勇敢な人のこころや、  
愛する人々のあはれにささやくのを感じます。  
ただ「神」とか「全能者」と  
よぶだけではなく、  
「天のお父様」とよぶのです。  
アドリアーナ・G, 9 才 (チリ)

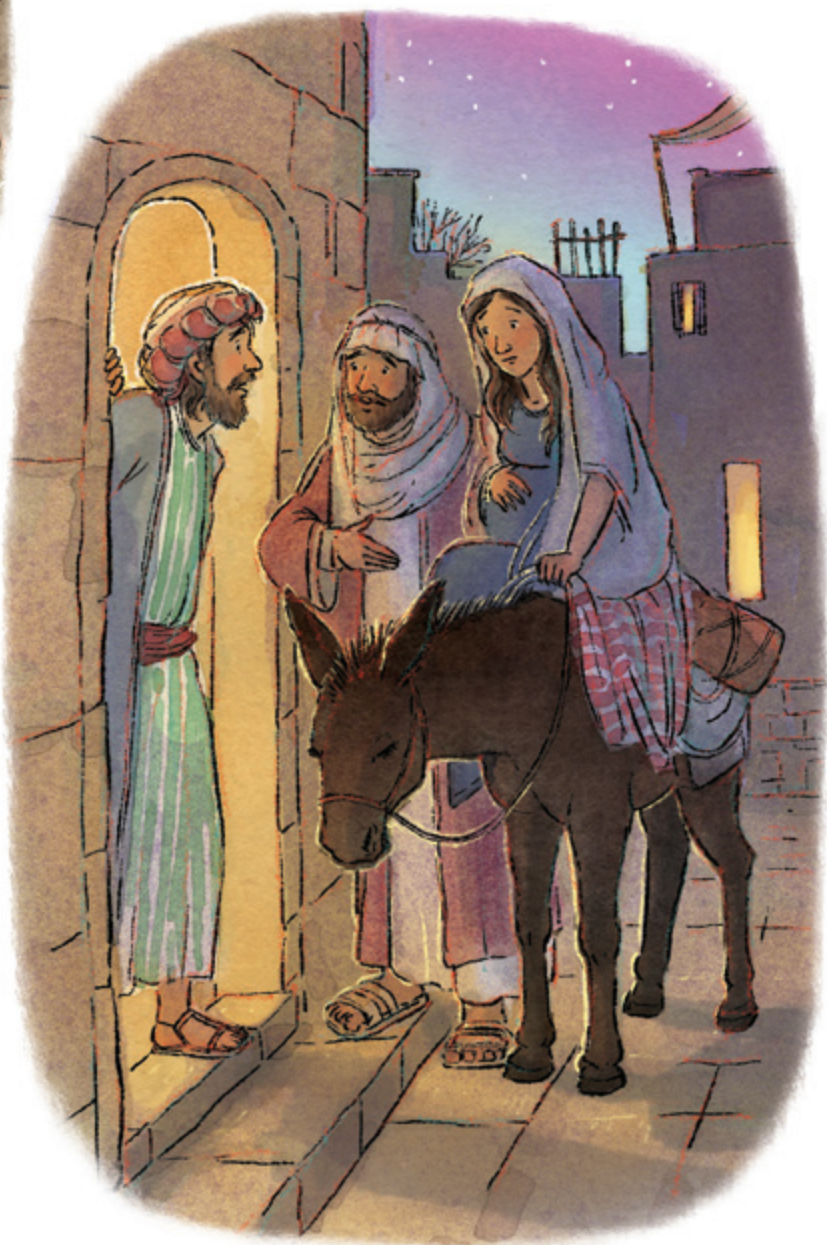
# イエス、ベツレヘムにお生まれになる

キム・ウェブ・リード



天使がマリヤにあらわれ、神はマリヤのことを喜んでおられると告げました。そして、マリヤはイエスのお母さんになるだろうと告げました。

マリヤとヨセフはベツレヘムに旅をしました。イエスがお生まれるになる時が近づいていました。あまりにたくさんの人々がベツレヘムに来たので、マリヤとヨセフはとまる部屋を見つけることができませんでした。宿屋の主人は二人を馬小屋にとまらせてくれました。





間もなく、イエスがお生まれになりました。世の光が地上にお生まれになったことをすべての人々に知らせるために、かがやく新しい星があらわれました。



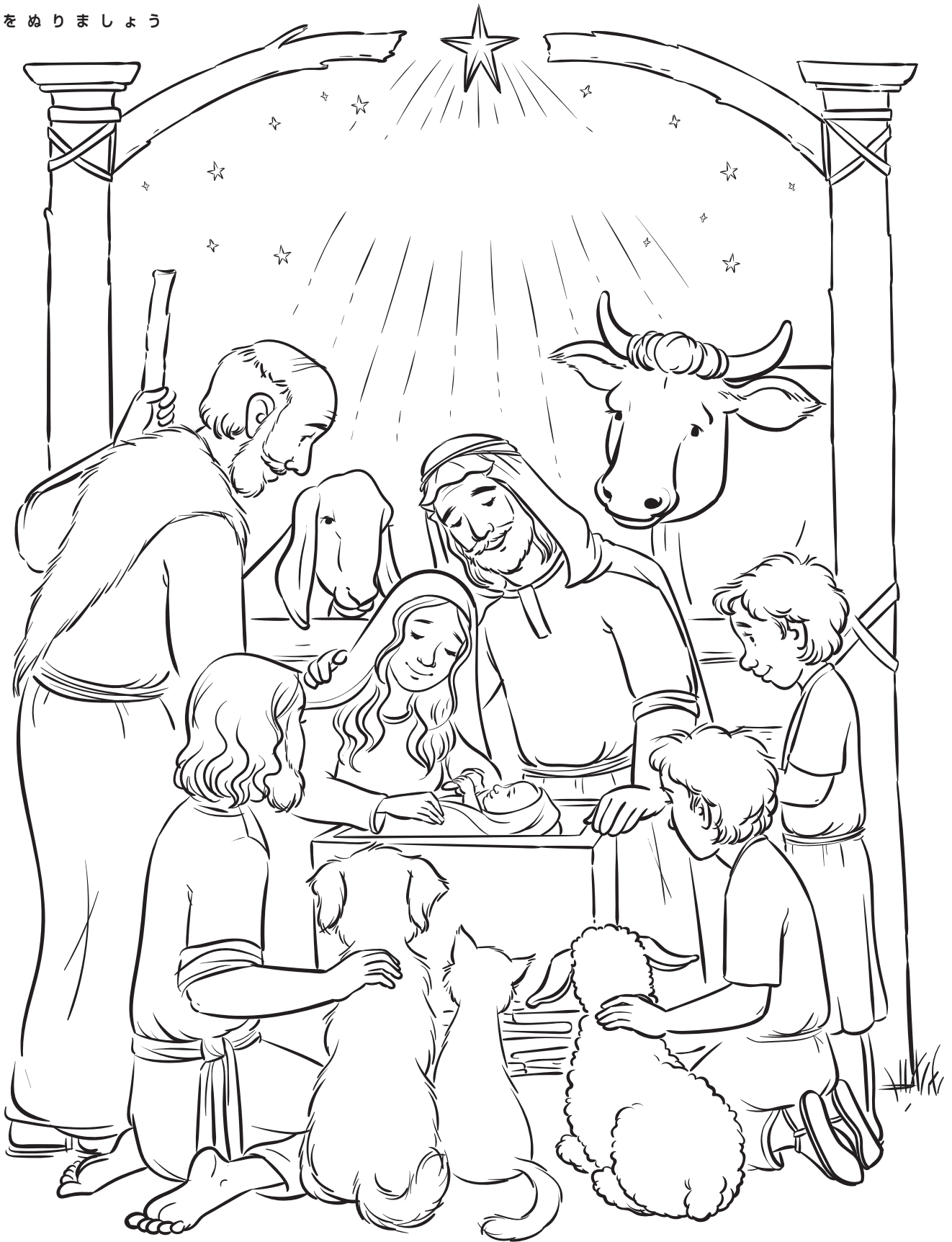
一人の天使が、羊飼いたちにイエスがお生まれになったことを告げました。羊飼いたちは、飼い葉おけにねているイエスに会いに急いで行きました。



イエスが地上<sup>ちしょう</sup>に来<sup>こ</sup>られたのは、わたしを愛<sup>あい</sup>してくださっているからです。わたしは、  
今年<sup>ことし</sup>のクリスマスと、そして一年中<sup>いちねんじゅう</sup>イエスの光<sup>ひかり</sup>にしたがいます。■

ルカ1:26 - 38:2:1 - 20





「そして〔羊かいたちは〕急いで行って、マリヤとヨセフ、また飼葉おけにねかしてある  
おさな子をさがしあてた。」(ルカ 2 : 16)



教会の初代大管長  
ジョセフ・スミス  
(1805 - 1844 年)

## キリストの 大義を 雄々しく果たす

善良でありすぎることなどあり得ません。

**わ**たしはキリストの大義と、徳と、純潔と、正しく揺るぎない振る舞いと、聖なる歩みを愛する者です。

わたしは神の前に徳高く、正直で、<sup>きよ</sup>聖い生活を送るべきことを信じ、わたしの力の及ぼせるすべての人がそうするように説き勧めるのが自分の義務だと感じています。彼らが悪事を行うのをやめ、正しいことをするようになり、義によってその罪を取り除けるようにするためです。

わたしたちは、聖なるイエスの子らを際立たせるすべての良い特質を身につけていくことによって、信仰を強めながら、祈るべきときに祈ることができます。自分自身を愛するように隣人を愛することができ、天の王国においてより大きな報いを得ることを理解することによって、<sup>かんなん</sup>艱難の間も忠実であることができます。何という慰めでしょう。何という喜びでしょう。わたしは義人の生活を送り、義人の報いを得たいと思います。……



人々の救いを強く望む者として、わたしは皆さんに思い起こしてもらうためにこれを話します。信仰に基づく熱意をもって徳と聖さを得るよう努め、主の戒めを守る努力をしてください。善良で、賢く、公正で、[自分の持っているものから]自由になり、そして何より、慈愛を示し、いつもあらゆる善い行いをしてください。……

柔和でへりくだり、高潔で清くあり、悪に対して善で報い、……人生のあらゆる局面において謙遜で忍耐強くあってください。そうすればいっそう輝かしい勝利を得るでしょう。

わたしたちは兄弟たちに〔そして姉妹たちに〕大胆に勧告します。謙遜で

あってよく祈り、光の子、昼の子として歩んでください。わたしたちの主イエス・キリストの尊い名によって恵みを受け、あらゆる誘惑に立ち向かい、あらゆる悪に打ち勝てるようにするためです。

すべての人は、ぶどう園における自分の熱意と根気強さに応じて報いを受けます。そのことについて考えるとき、この喜びのおとずれの教導者として召されているすべての人は、間違いなく靈感を受けることでしょう。……

わたしたちは神を信頼しています。そして日の栄えの冠を与えられて、神の子供たちのために用意されている安息に入ることができるように、神の恵みにより助けられて、最後まで大義を守り、忠実であり続けようと決意しています。……

善良でありすぎることなどあり得ません。忍耐は天にふさわしく、従順は高貴であり、<sup>ゆる</sup>救いは<sup>あわ</sup>憐れみ深く、あがめることは信仰深い行いです。最後まで忠実を貫く人は、決してその報いを失うことはありません。善良な人は〔男であれ女であれ〕キリストをあがめるためにすべてのことを堪え忍〔ぶのです〕。■

『歴代大管長の教え — ジョセフ・スミス』  
352 - 356 参照



「宮の中のイエス」  
クリステン・ダルスガード画

「主よ、今こそ、あなたはみ言葉のとおり<sup>しもべ</sup>にこの僕を安らかに去らせてくださいます、  
わたしの目が今あなたの救を見たのですから。  
この救はあなたが万民のまえにお備えになったもので、  
異邦人を照す啓示の光、み民イスラエルの栄光であります。」  
——ルカ 2 : 29 - 32 ; 25 - 35 節も参照

# 今月号のその他の記事

## ヤングアダルト

### 救い主への贈り物

わたしは宣教師として自分が不十分だと感じました。そして気づいたのは、自分自身に目を向けるのをやめ、救い主に思いを向けるようにする必要があるということでした。



48  
ページ

## 青少年

54  
ページ



### クリスマスが宣教師となる 絶好の時季である 8つの理由

福音を友達と分かち合いたいけれど方法が分からない、そう思ったことはありませんか？ クリスマスがなぜ、宣教師になることが最も簡単な時季の一つなのかを紹介します！

## 子供

### イエスの教え

イエスの教えにしたがうためにこの星を使い  
今月クリスマスのじゅんびをしましょう。



72  
ページ

